

金 沢 市

観法寺墳墓群・観法寺ジンヤマ横穴・
観法寺ジンヤマ窯跡・観法寺ヤツタ遺跡

2 0 0 5

石 川 県 教 育 委 員 会

(財)石川県埋蔵文化財センター

金 沢 市
かん ぼう じ ふん ぼ ぐん
観法寺墳墓群・観法寺ジンヤマ横穴・
かん ぼう じ ふん ぼ ぐん
観法寺ジンヤマ窯跡・観法寺ヤツタ遺跡

2 0 0 5

石 川 県 教 育 委 員 会

(財)石川県埋蔵文化財センター

例 言

- 1 本書は観法寺墳墓群・観法寺ジンヤマ横穴・観法寺ジンヤマ窯跡・観法寺ヤツタ遺跡の確認調査報告書である。
- 2 遺跡の所在地は金沢市観法寺町地内である。
- 3 調査原因は一般国道8号金沢東部環状道路事業であり、同事業を所管する国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所（旧 国土交通省北陸地方整備局金沢工事事務所）が、石川県教育委員会に確認調査を依頼したものである。
- 4 調査は財団法人石川県埋蔵文化財センター（以下県埋蔵文化財センター）が、石川県教育委員会から委託を受けて平成14（2002）年度に現地調査を、平成16（2004）年度に出土品整理、報告書刊行を実施した。
- 5 調査に係る費用は、国土交通省北陸地方整備局金沢河川国道事務所が負担した。
- 6 現地調査は平成14（2002）年度に実施した。期間・面積・担当課・担当者は下記のとおりである。

期 間 平成14（2002）年9月3日～平成14（2002）年11月8日

面 積 約1,000m²（対象面積約28,700m²）

担当課 調査部調査第1課

担当者 北川 晴夫（調査専門員）、柿田 祐司（主任主事）、松尾 実（嘱託）
- 7 出土品整理は平成16（2004）年度に実施し、企画部整理課が担当した。
- 8 物理探査は応用地質株式会社に委託して行った。本報告書の図面類のデジタル図化・編集（各種データ加工）及びカメラからの三次元解析図化に関しては株式会社セビラス・同社写真解析チームの協力を得た。
- 9 資料公開の方向性を重視し調査過程から一定の条件のもと、報告書作成データの2次的加工により公開資料の製作を行った（添付CD-ROM）。
- 10 報告書の刊行は平成16（2004）年度に実施し、調査部調査第1課が担当した。執筆分担は下記のとおりである。編集は柿田（調査部調査第1課主査）が行った。

第1章・第2章・第3章第1・2節・第4章：柿田（調査部調査第1課主査）

第3章第3節：松尾（調査部調査第1課嘱託）
- 11 調査には下記の機関、個人の協力を得た。

国土交通省金沢河川国道事務所 金沢市教育委員会 株式会社治山社 株式会社セビラス

応用地質株式会社 坂野 謙志
- 12 調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。
- 13 本書についての凡例は下記のとおりである。
 - (1) 方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標Ⅶ系に準拠した。
 - (2) 水平基準は海拔高であり、T.P.（東京湾平均海面標高）による。
 - (3) 出土遺物番号は挿図と写真で対応する。

目 次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	1
第2章 遺跡の位置と環境	2
第1節 遺跡の位置	2
第2節 歴史的環境	2
第3章 調査の概要	7
第1節 谷部の調査（観法寺ヤッタ遺跡）	7
第2節 丘陵斜面の調査（観法寺ジンヤマ窯跡・観法寺ジンヤマ横穴）	17
第3節 丘陵部の調査（観法寺墳墓群）	19
第4章 物理探査	24
第1節 レーダー探査	24
第2節 磁気探査	24
第5章 ま と め	27
〈引用・参考文献〉	28

挿 図 目 次

第 1 図	遺跡の位置……………	2	第 10 図	トレンチ 7～9 土層断面図 ……	15・16
第 2 図	観法寺ジンヤマ窯跡他確認調査の位置と周 辺の遺跡……………	3	第 11 図	観法寺ジンヤマ窯跡推定焚口部出土瓦	17
第 3 図	確認調査対象範囲と確認トレンチ及び確認 されている窯跡と横穴墓の位置……………	6	第 12 図	観法寺ジンヤマ窯跡周辺遺物 ……	18
第 4 図	試掘坑土層柱状図 (1) ……	8	第 13 図	土層断面柱状模式図 ……	19
第 5 図	試掘坑土層柱状図 (2) ……	9	第 14 図	トレンチ平面図 ……	20
第 6 図	トレンチ 2 出土遺物 ……	10	第 15 図	装飾器台出土状況実測図 ……	21
第 7 図	トレンチ 7 出土遺物 ……	11	第 16 図	丘陵部出土遺物 ……	22
第 8 図	その他の遺物 ……	12	第 17 図	地下レーダー探査の記録と解釈結果 ……	25
第 9 図	トレンチ 1～7 土層断面図 ……	13・14	第 18 図	丘陵部遺構分布状況推定平面図 ……	25
			第 19 図	北側斜面遺構分布状況推定平面図 ……	26
			第 20 図	南側斜面磁気探査結果 ……	26

挿 表 目 次

第 1 表	周辺遺跡一覧表……………	4	第 3 表	丘陵部遺物観察表 ……	23
第 2 表	谷部・丘陵斜面遺物観察表 ……	18			

図 版 目 次

図版 1	調査着手前	図版 11	丘陵斜面・谷部の調査 (丘陵南側斜面調査 後、谷部試掘トレンチ等遠景)
図版 2	谷部の調査 1 (試掘坑 1～8)	図版 12	丘陵部の調査 1 (1・2 区、3・4 区)
図版 3	谷部の調査 2 (試掘坑 9・10、トレンチ 1・2)	図版 13	丘陵部の調査 2 (3 区・5 区)
図版 4	谷部の調査 3 (トレンチ 3・4)	図版 14	丘陵部の調査 3 (6 区、7 区)
図版 5	谷部の調査 4 (トレンチ 5・6)	図版 15	丘陵部の調査 4 (8 区全景、1～4 区土層 断面)
図版 6	谷部の調査 5 (トレンチ 7)	図版 16	丘陵部の調査 5、物理探査 (5～8 区、物 理探査、観法寺瓦窯、観法寺須恵器窯)
図版 7	谷部の調査 6 (トレンチ 8)	図版 17	貯蔵穴群 1 (貯蔵穴群、貯蔵穴 1～4)
図版 8	谷部の調査 7 (トレンチ 9)	図版 18	貯蔵穴群 2 (貯蔵穴 5～9・11～13)
図版 9	丘陵斜面の調査 1 (丘陵北側斜面調査後、 観法寺ジンヤマ横穴)	図版 19	谷部出土遺物
図版 10	丘陵斜面の調査 2 (観法寺ジンヤマ窯跡窯 体露出部、推定焚口部瓦出土状況)	図版 20	丘陵斜面・丘陵部出土遺物

第1章 調査に至る経緯と経過

第1節 調査に至る経緯

本確認調査の実施は、一般国道8号金沢東部環状道路事業を原因とする。この事業は、国道8号線及び国道159号線の金沢都市部の混雑解消を図るとともに、北陸自動車道と連結することによって、広域的地域開発の活性化に大きく寄与する事業として位置づけられている。

平成14年8月2日に観法寺町在住の坂野謙志氏により工事中の丘陵斜面で窯跡の露頭があるとの連絡を受けた県文化財課は、8月5日に試掘調査を実施しそれを確認した。8月7日には県文化財課と国土交通省北陸地方整備局金沢工事事務所（現 金沢河川国道事務所）とが協議し、平成4・10年度の分布調査回答についての確認を行うとともに、工事を中断し工事範囲内における埋蔵文化財の所在範囲を把握するために確認調査が必要であるとの共通認識を確認した。

県文化財課は確認調査の期間に約1ヶ月を要するとし、その調査を県埋蔵文化財センターに委託するため、国土交通省関連の発掘調査事業の見直しを金沢工事事務所と協議を行った。また、県埋蔵文化財センターとは調査計画を見直し確認調査を受託できないかとの協議がもたれた。

第2節 調査の経過

県埋蔵文化財センターでは県教育委員会より委託を受け、約28,700m²を対象に平成14年9月3日より確認調査を開始した。調査方法及び確認調査範囲については、県文化財課と絶えず調整を行いながら作業を進めた。そして現地確認調査を同年11月8日をもって終了した。

調査は、丘陵上部・丘陵斜面部・谷部の3地区に大きく分けて行った。丘陵上部には人力によりトレンチ掘削を行い、遺物・遺構の確認のほか、土層柱状図を作成した。丘陵斜面部に対しては、谷部よりバックホーのアームが届く範囲の表土を除去し、遺物・遺構の確認を行った。谷部に対しては試掘ピット10箇所、トレンチ10箇所を掘削し、遺物・遺構の有無を確認した。

それぞれに土層断面図を作成し土壌の堆積状況等を確認した。土層図の作成は、現地での従来手法による実測のほか、(株)セビアスの提案・協力により担当者が撮影したデジタルカメラ情報からの写真解析図化を並行して行い、事後検証できる図化情報（第13・14図及びCD詳細）の作成も合わせて行った。このトレンチ調査及び試掘ピットの調査面積は約1,000m²となった。

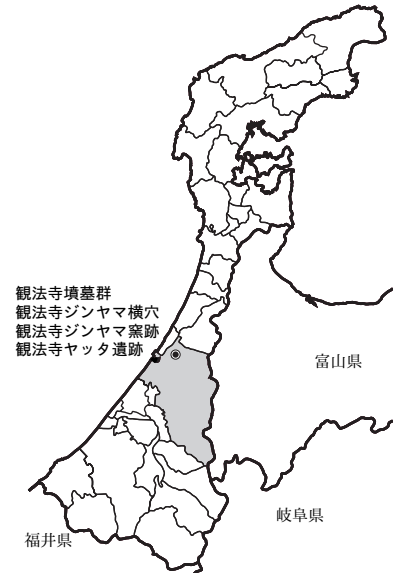
物理探査は、重機及び人力では確認が難しい範囲、また広範に把握したほうが良い箇所に対して行った。丘陵斜面部に関しては、窯跡が確認されていたことから磁気探査を行い、ほかに窯跡がないか確認を行った。丘陵上部及び横穴墓が確認されていた丘陵北側斜面部に関しては、レーダー探査を行った。トレンチ調査と併用することにより、調査精度の向上を図った。物理探査での調査面積は約3,000m²となった。

確認調査で得られた出土品の整理は、平成16年度に県埋蔵文化財センター企画部整理課が担当した。報告書の原稿執筆及び刊行は平成16年度に調査部調査第1課が担当した。

第2章 遺跡の位置と環境

第1節 遺跡の位置

確認調査対象地は、金沢市観法寺町に所在し、森下川右岸の森本丘陵より派生した丘陵及び谷部に立地する。森本丘陵の北西側の山麓線は、金沢市東山付近から津幡町浅田にかけて北東～南西方向に直線状の急傾斜となっている。この特徴的な地形は、森本断層の活動に伴うものと考えられている。実際に梅田B遺跡では噴砂や断層が確認されている。また、津幡町から金沢市森本付近までの山地には、北西向きの斜面に地すべりが多くみられ、これは地層の傾斜方向と合っており、層すべり的な地すべりが発生しているものと考えられる。これらの地すべりなどから供給される土砂により、山麓部には連続的に緩傾斜の扇状地が形成されている。今回の対象範囲もそのような状態がみられる地域である。



第1図 遺跡の位置

第2節 歴史的環境

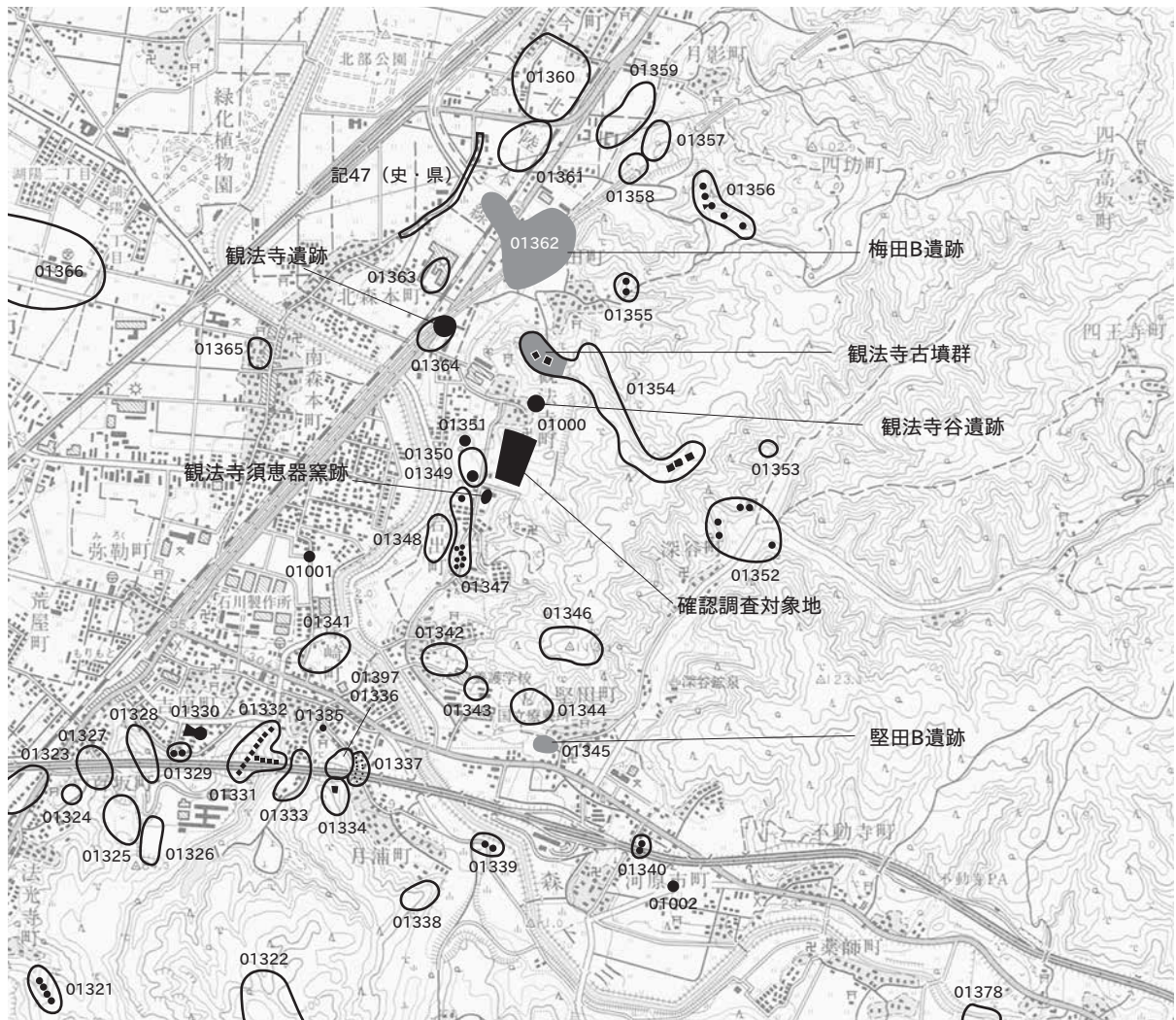
観法寺町が所在する金沢市北部では、南部と比べると縄文時代の遺跡は少なく、本格的な定住がみられるようになるのは弥生時代以降のことになる。縄文時代草創期の有舌尖頭器が発見された吉原七ツ塚遺跡や今町A遺跡、梅田B遺跡など平野と丘陵の傾斜変換点に位置する部分で土器等の出土が確認される程度である。

弥生時代中期以降、確認される遺跡は増加してくる。弥生時代後期から古墳時代前期にかけて丘陵上や山麓沿いの傾斜地上を中心に遺跡の分布が目立つ。森下川左岸の谷口部付近の丘陵上には、玉生産遺跡として有名な塚崎遺跡、谷を隔てた西側丘陵には方形周溝墓・方形台状墓からなる吉原七ツ塚墳墓群がある。また確認調査対象地の北方約1kmの丘陵西麓斜面上には、弥生時代終末期の月影式土器の標式遺跡として著名な月影遺跡が所在する。隣接する観法寺古墳群は、弥生時代末～古墳時代初頭頃と考えられ、また梅田B遺跡でも古墳時代初頭頃の遺物が大量に出土している溝があり、丘陵上部で確認した観法寺墳墓群との関係が注目される。梅田B遺跡では、弥生時代の水田跡が北陸で初めて多数まとまった状態で検出されている。この水田跡は、それまであった弥生時代後期の集落が廃絶した後に造られたもので、森本断層の活動による地震によって隆起と沈降が生じ、その影響により集落を営むことができない状況が発生し、水田化されたと考えられる。古墳時代初頭頃までは生産が行われていたようである。この地震の影響は、梅田B遺跡だけでなく当時の周辺に及ぼした影響は計り知れないと考えられるが、今のところ他の遺跡では地震による影響をみることはできない。時代は下るが、後述する中世の堅田B遺跡では鎌倉時代頃の噴砂跡が確認されている。

古墳時代には、現在でも「塚崎」や「七ツ塚」など古墳に因んだ地名がみられるように、浅野川と森下川の間谷頭丘陵上や傾斜地上に多くの古墳群が築かれた事が確認されている。代表的なものに、吉原親王塚古墳、小坂古墳群、神谷内古墳群などがある。そのうち小坂古墳群は、小坂町背後の丘陵

に築かれた4基の方墳と10基の円墳からなり、1号墳(円墳)からは、鉄器(剣・鎌・刀子・斧・鉾)や紡錘車形石製品が出土した。また、吉原親王塚古墳からは金環・直刀・鉄鎌が出土しており、前方後円墳であった可能性も指摘されている。さらにこれらの古墳群から森下川を隔てた岩出町・観法寺町等の丘陵や丘陵斜面上に古墳時代後期の横穴墓群が築かれた。観法寺ジンヤマ横穴もそれらの中の一つである。古墳時代の集落跡は古墳群や横穴墓群と比較して貧弱であるといわざるを得ないが、それらが古墳時代を通じて連綿と築かれる状況を考慮すると、加・越・能を結ぶ交通の要衝としての当地域が、古墳時代における政治・文化の中心地域であったといえよう。

古代の遺跡は、今町A遺跡、岩出うつぼ遺跡、観法寺遺跡などが知られている。今町A遺跡では、明確な遺構は検出されていないが、8世紀前半代の墨書土器が多数出土している。観法寺遺跡では、石川県では2例目となった古代北陸道が検出されている。古代の官道は、全国的に7世紀後半代に成立すると考えられ、9世紀前半には道路幅の縮小など造り替えが行われている例が多いが、観法寺遺跡では成立年代はわからないものの8世紀末葉頃には道路側溝が埋没し始める状況がみられ、9世紀代には機能していないと考えられている。今町A遺跡も8世紀後半代までとみられており、9世紀代まで続く集落はあまりみられない。梅田B遺跡では10世紀以降集落が形成されるようで、古代北陸



第2図 観法寺ジンヤマ窯跡他確認調査の位置と周辺の遺跡 [S = 1/25,000]
(国土地理院 1:25,000 地形図「粟崎」使用)

第2節 歴史的環境

番号	名称	所在地	現状	立地	時代	出土品	備考
	観法寺ジヤマ横穴	金沢市観法寺町	不詳	不詳	古墳後期		2002年(財)石川県埋蔵文化財センター確認調査。
	観法寺墳墓群	金沢市観法寺町	不詳	不詳	弥生後期後半～末	弥生土器	2002年(財)石川県埋蔵文化財センター確認調査。
	観法寺ジヤマ窯跡	金沢市観法寺町	不詳	不詳	古墳後期	須恵器、丸瓦、平瓦	2002年(財)石川県埋蔵文化財センター確認調査。
	観法寺ヤツタ遺跡	金沢市観法寺町	不詳	不詳	平安後期、中世後期	土師器、瀬戸焼	2002年(財)石川県埋蔵文化財センター確認調査。
	観法寺須恵器窯跡	金沢市観法寺町	山林	丘陵斜面	古墳後期	須恵器	文献有り。
	観法寺谷遺跡	金沢市観法寺町	不詳	森下川流域丘陵裾部谷間	中世	中世土師器、陶磁器、木製品(箸、漆器、曲物容器、横櫛、柄付き工具、下駄、鳥形、柱材、板材、板絵)、石製品、金属製品、銭貨	1999年(財)石川県埋蔵文化財センター発掘調査。
01001	南森本・塚崎遺跡	金沢市南森本町・塚崎町	不詳	森下川の自然堤防上	弥生、古墳、古代	弥生土器、土師器、須恵器、墨書土器、木製品	1998年金沢市教委発掘調査。1998年金沢市教委発掘調査。
01002	河原市遺跡	金沢市河原市町	道路	森本川河岸段丘第2段丘面	縄文、中世	土器、石器、珠洲焼、加賀古陶、土師器	金沢市では河原市館跡。1994年金沢市教委発掘調査。1994年金沢市教委発掘調査。
01321	法光寺古墳群	金沢市法光寺町	山林	丘陵	古墳		枝番号が4番までである。
01322	御屋敷城跡	金沢市月浦町	山林	山頂	中世		土塁、空濠、平坦面有り。
01323	百坂C遺跡	金沢市百坂町	水田、宅地	平地	中世	青磁、陶器、土師質土器	
01324	百坂B遺跡	金沢市百坂町	山林	丘陵	古墳(前期)	土師器	1971年県教委発掘調査。文献有り。
01325	百坂あちやま遺跡	金沢市百坂町	畑地	丘陵	縄文	土器	
01326	松陵高校グラウンド遺跡	金沢市吉原町	校地	丘陵	縄文(早期・前期)	土器、尖頭器	
01327	百坂A遺跡	金沢市百坂町	高速道路、山林	丘陵	古墳	土師器	1971年県教委発掘調査。文献有り。
01328	古原大門山遺跡	金沢市吉原町	高速道路	丘陵	古墳	土器、鉄器	1972、73年県教委発掘調査。北陸自動車道建設のため。文献有り。
01329	吉原法華堂古墳群	金沢市吉原町	高速道路、山林	丘陵裾	古墳(後期)	枝番号参照	枝番号が2番までである。文献有り。
01330	吉原親王塚古墳	金沢市吉原町	宅地	丘陵裾	古墳	直刀、須恵器	1945年消滅。前方後円墳(全長77m)と推定される。文献有り。
01331	吉原七ツ塚墓群	金沢市吉原町	高速道路	丘陵	弥生		枝番号が22番までである。1972年県教委発掘調査。文献有り。
01332	吉原七ツ塚遺跡	金沢市吉原町	高速道路	丘陵	縄文、弥生、古墳	有舌尖頭器、弥生土器、管玉	尖頭器は表土除去作業中に発見。弥生時代は土壌群。1971～74年県教委発掘調査。文献有り。
01333	塚崎大谷遺跡	金沢市塚崎町	水田	平地	縄文、古墳	縄文土器、磨製石斧、土師器	
01334	塚崎古墳	金沢市塚崎町	山林	丘陵	古墳		方墳、辺21m、高1m。
01335	塚崎八幡神社古墳	金沢市塚崎町	社地	丘陵	古墳		
01336	塚崎遺跡	金沢市塚崎町	畑地、高速道路	丘陵	弥生、古墳	土器、管玉、同未成品同原石、鉄剣、鉄鎌、石器、ガラス小玉、勾玉、碧玉質管玉、原石	1971～73年調査団発掘調査。文献有り。
01337	塚崎横穴群	金沢市塚崎町	山林、高速道路	丘陵斜面	古墳(後期)	枝番号参照	枝番号が12番までである。1971、72年県教委発掘調査。北陸自動車道建設のため。文献有り。
01338	月浦古墳群	金沢市月浦町	山林	丘陵	古墳		枝番号が2番までである。
01339	月浦町おやだま横穴群	金沢市月浦町	山林	丘陵裾	古墳(後期)		2基よりなる。
01340	河原市経塚群	金沢市河原市町	高速道路	台地端	近世(江戸)	枝番号参照	枝番号が2番までである。1973年県教委発掘調査。文献有り。
01341	塚崎タカキ遺跡	金沢市塚崎町	水田、道路、畑地	平地	古墳、平安	碧玉原石、土師器、須恵器	1971年県教委発掘調査。文献有り。
01342	岩出うわの遺跡	金沢市岩出町	畑地、校地	丘陵	縄文、弥生、古墳	縄文土器、石鎌、弥生土器、土師器、須恵器、勾玉、鉄鎌	1978年県教委発掘調査。1980、81年石川県立埋蔵文化財センター発掘調査。
01343	岩出銭ガメ塚古墳	金沢市岩出町	病院敷地	丘陵	古墳		
01344	堅田A遺跡	金沢市堅田町	畑地	平地	古墳	土師器	
01345	堅田B遺跡	金沢市堅田町	畑地	平地、森下川の河岸段丘右岸・上	中世	土師器、漆器桶、下駄、曲物、卒塔婆、輸入銭、金銅製飾り金具、清白磁類、陶磁器、木簡	1996～99年金沢市教委発掘調査。文献有り。
01346	堅田城跡	金沢市堅田町	山林	丘陵	中世		平坦面、切通し。
01347	岩出横穴群	金沢市岩出町	道路法面、宅地、山林	丘陵斜面、山麓	古墳(後期)	人骨、獣骨、貝、須恵器、土師器、刀装具、刀子、直刀、金環、管玉	枝番号が8番までである。
01348	岩出うつぼ遺跡	金沢市岩出町	畑地	平地	平安	須恵器	
01349	観法寺古墳	金沢市観法寺町	山林	丘陵斜面	古墳(後期)		円墳。径10m、高13m。自然丘の可能性あり。
01350	観法寺横穴群	金沢市観法寺町	山林	丘陵	古墳(後期)		14基よりなる。9基が消滅し1～5号墓のみ現存すると推定される。
01351	観法寺瓦窯跡	金沢市観法寺町	畑地	丘陵	平安	瓦	文献有り。
01352	深谷横穴群	金沢市深谷町	山林、畑地	丘陵斜面	古墳(後期)		枝番号が5番までである。
01353	深谷遺跡	金沢市北森本町	畑地	丘陵	縄文	石斧	
01354	観法寺古墳群	金沢市観法寺町	畑地、山林	丘陵上	弥生、古墳、奈良、平安、中世	弥生土器、土師器、須恵器、金属製品、中世土師器、陶磁器、瓦、石製品	枝番号が5番までである。1998、99、2000年(財)石川県埋蔵文化財センター発掘調査。
01355	梅田横穴群	金沢市梅田町	山林	丘陵裾	古墳(後期)		2基よりなる。
01356	月影古墳群	金沢市月影町	山林	丘陵	古墳		前方後円墳1基、円墳4基よりなる。
01357	月影遺跡	金沢市月影町	畑地	丘陵	弥生	土器、シジミ	弥生時代終末「月影式土器」の標式遺跡。文献有り。
01358	月影塚	金沢市月影町	墓地	丘陵	不詳		径約8m。
01359	今町僧ノ町遺跡	金沢市今町	畑地	平地	平安	須恵器	
01360	今町御所野遺跡	金沢市今町	畑地、水田	平地	平安	須恵器	
01361	今町A遺跡	金沢市今町	水田、道路	平地	縄文、奈良、平安、中世、近世	縄文土器、宋銭2、曲物、土錘、須恵器、土師器、貨幣、木材	1971年県教育委員会発掘調査。文献有り。
01362	梅田B遺跡	金沢市梅田町	畑地、水田、宅地	低湿地の微高地、丘陵裾部、沖積地、山麓の急傾斜地、山麓の緩斜面	縄文～近世	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、古代瓦、中・近世陶磁器、木製品、石製品、鉄器	1993～97年(社)石川県埋蔵文化財保存協会発掘調査。1998、99年(財)石川県埋蔵文化財センター発掘調査。
01363	梅田遺跡	金沢市梅田町	宅地	平地	古墳(後期)	土師器	耕地整理により損壊。
01364	観法寺遺跡	金沢市観法寺町	水田	沖積地	縄文、弥生、奈良、平安、中世、近世	縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、古代瓦、中・近世陶磁器、木製品、石製品	1999年(財)石川県埋蔵文化財センター発掘調査。
01365	亀田大隅岳信館跡	金沢市南森本町	宅地	平地	中世(室町)		
01366	大場遺跡	金沢市大場町	水田、校地	平地	古墳、室町	土師器	
01378	梨木城跡	金沢市梨木町	畑地	河岸段丘、丘陵	近世(安土桃山・江戸)	土師器、珠洲焼、加賀焼、越前焼、江戸、青磁、白磁、金属製品	土塁、平坦面。2002年金沢市教委発掘調査(学術調査)。
01397	塚崎中世遺跡	金沢市塚崎町	畑地、高速道路	丘陵	中世(室町)	火葬骨、土師質小皿、珠洲焼	

第1表 周辺遺跡一覧表

道の消滅と関連を考える必要がある。古代北陸道が成立するとみられている7世紀後半代の遺跡は、今町A遺跡、梅田B遺跡で遺物の出土がみられるのみで遺構は確認できていない。観法寺須恵器窯跡は7世紀前半代に開窯され、観法寺瓦窯は7世紀後半から8世紀前半にかけてと考えられている。確認対象となった窯から出土した瓦も同様の時期と考えられ、北陸道成立ともなんらかの関係があるとみられる。なお観法寺瓦窯で生産された瓦は、金沢市広坂廃寺に供給されたことが明らかとなっており、森本地域を本拠地の一つとしていたと考えられる道氏との関連を想定すべきであろう。

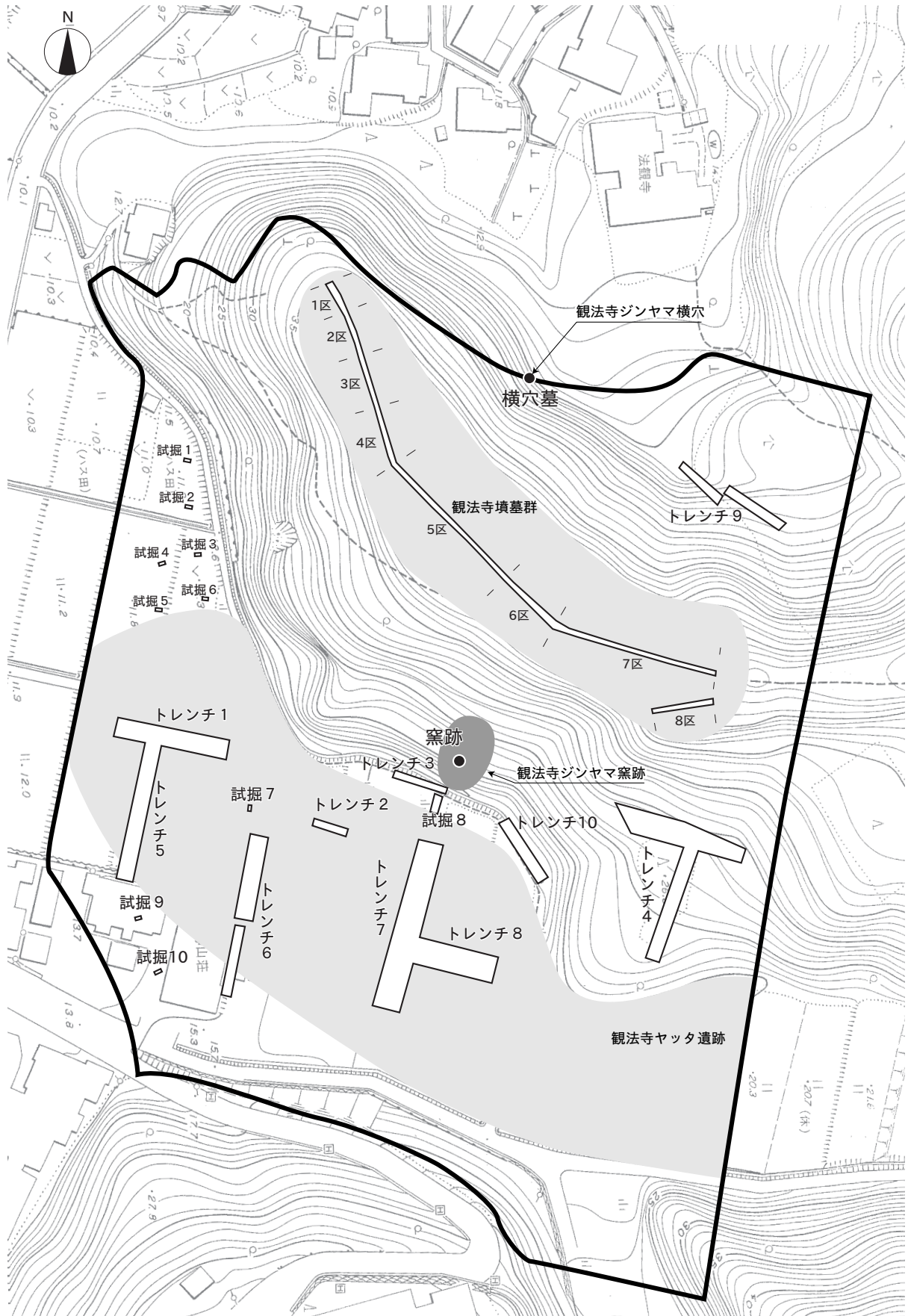
古代後半期には、梅田B遺跡で10・11世紀代の集落跡や、鋳型等の鋳造関連遺物が検出されている。さらに「寺」と線刻された土師器や、奈良・平安時代の瓦がかなりの量出土している。観法寺古墳群では、1×1間の掘立柱建物跡や丘陵頂部を縦断する幅約80cm、深さ約1mの溝など古代の祭祀遺跡と考えられている遺構群が検出されている。隣接して弥勒寺推定地と考えられている観法寺町北側に所在する稲荷神社境内がある。寺が存在していた可能性はきわめて高いと考えられる。また、観法寺ヤツタ遺跡も11世紀代の集落跡と考えられ、梅田B遺跡と同様に谷部に形成されることは、当時の環境の変化や宗教関連の施設としての可能性も視野に入れて考えるべき問題であろう。

中世には城址の多くが加賀と越中を結ぶ街道沿いに構築されており、北陸道やその間道が通るこの地域では、当然ながら多くの城址が存在する。これらは平時には流通上の拠点として、有事には軍事的拠点として重要な役割を果たした。そのうち堅田城は、吉原町で北陸道から分岐する主要街道である小原越道を南に望む丘陵上に立地し、単純な虎口・高切岸・畝形阻塞等の遺構や、未整形な部分が多いことなどから短期間の築城から廃城といった過程が想定されており、一向一揆方が築いたものと考えられている。

中世前期には梅田B遺跡、堅田B遺跡などがある。堅田B遺跡は堅田城の下に位置する堀に区画された鎌倉時代の居館跡である。さらに南東約600mには市の跡かと推定されている河原市館跡があり両者は関連するものと考えられている。堅田B遺跡からは、大量の土師器、木製品、陶磁器類が出土している。その中で注目されるのは、中世に流行した一種の願掛けの風習を示す「巻数板(かんじょういた)」の出土である。巻数板2点には、建長3(1251)年のものと弘長3(1263)年の年紀が書かれているものがある。居館の居住者は、承久の乱(1221)後に地頭となった東国御家人ではないかと推定されている。そのほか、梅田B遺跡では13世紀前半代に成立する集落跡が見つかり、堅田B遺跡との関連も考えられる。また確認調査対象地の丘陵北側の谷部にある観法寺谷遺跡では、木製品が豊富に出土しており、鳥形、板絵などが出土している。その立地や遺構・遺物などから一般的な集落とは様相を異にしていると考えられている。観法寺古墳群の丘陵斜面には、鎌倉時代頃とされる1×1間程度の掘立柱建物跡や土師器皿が集中して廃棄されている箇所があるなど祭祀・儀礼の空間であろうと考えられている。

中世後期になると、堅田B遺跡も衰退する。金沢市北部地域では、この頃の遺跡調査は少なく15世紀後半～16世紀代の土師器皿が大量に一括出土した大場遺跡が知られる。観法寺ヤツタ遺跡でも15世紀代の遺物は出土したが、遺構については良くわかっていない。梅田B遺跡では遺構は検出していないが、近世段階の用水から15～16世紀代の遺物が多く出土している。また谷奥では14～16世紀代の遺物が表採されていることから、当期の遺跡が谷奥にあると考えられる。そして、時宗関連の文献に「梅田に光摂寺という寺院があった」という記述、小字名称に「アマダジ」があることなどから現在の集落付近に光摂寺が存在していた可能性があると考えられている。

当地域は古代以降、祭祀・宗教関連の遺跡が多数検出されていることから、当時の人々にとって特別な空間として認識されていた地域といえよう。



第3図 確認調査対象範囲と確認トレンチ及び確認されている窯跡と横穴墓の位置 [S = 1/1,250]

第3章 調査の概要

第1節 谷部の調査（観法寺ヤッタ遺跡）

1. 概要

確認調査対象範囲には既に高く盛土がされており、確認するためのトレンチがどうしても深くならざるを得ず、思うような調査は難しかった。

調査は主に重機を使って試掘坑10箇所、トレンチ10箇所を掘削し、試掘坑はできうる限り掘り下げた。それぞれ壁面を精査し、その土壌の堆積状況を図面に収めた。試掘坑については地表面からの深さを測り、その後地表面の標高を測った。



トレンチ7土層断面図実測風景

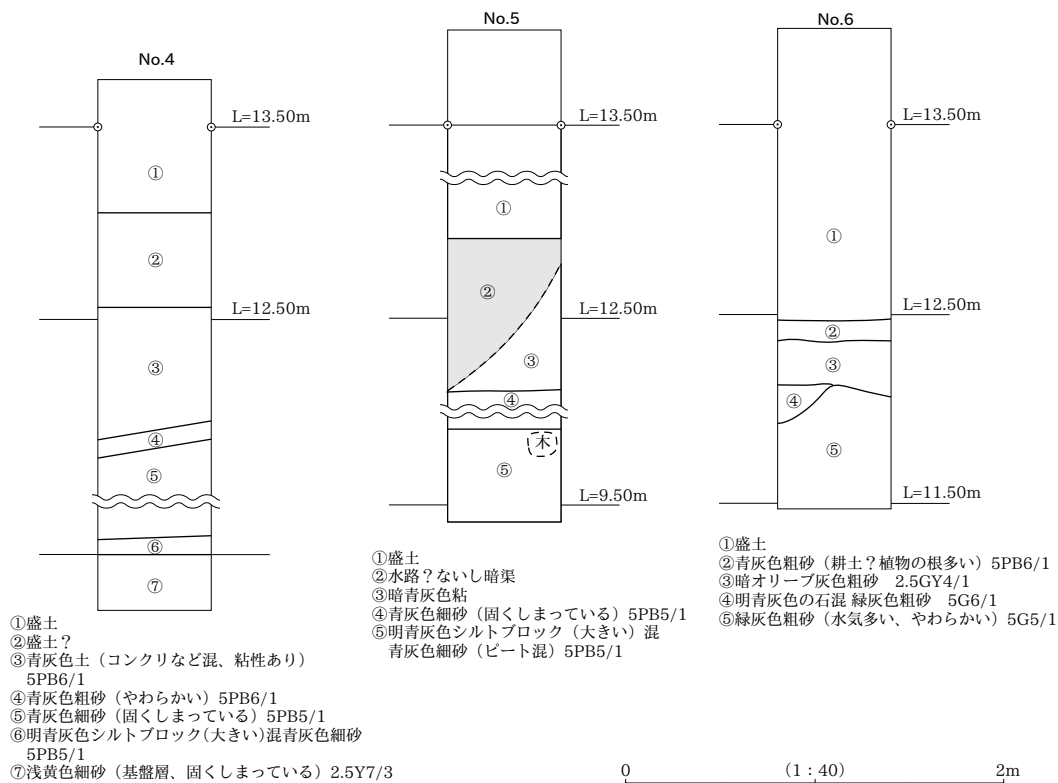
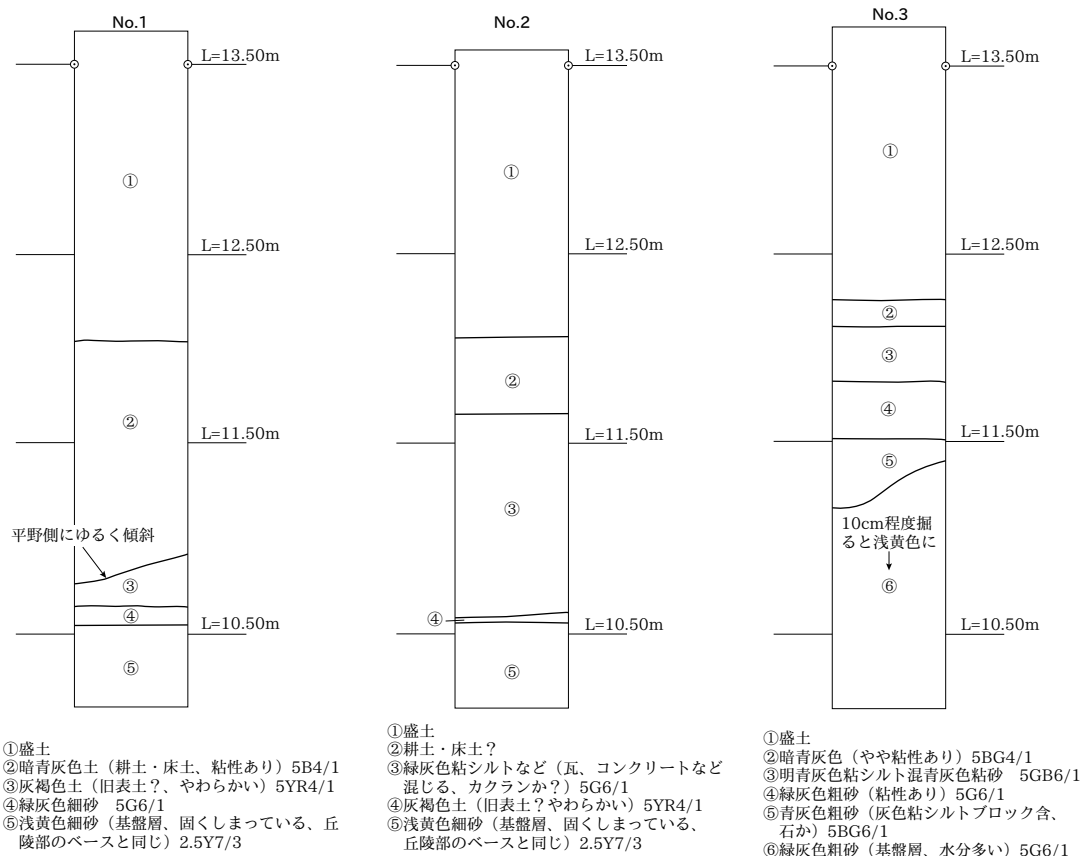
トレンチの土層図面作成は、手実測のほかにデジタルカメラからの写真計測も同時に行い、その図化に際して株式会社セビアスの三次元解析チームの協力を受けた。

2. 試掘坑（第4・5図）

試掘坑1～6は、盛土がかなり厚くトレンチ調査を行うことが難しいと判断した範囲に設定した。この範囲はかつてレンコン栽培を行っていた場所であり、試掘坑1・2では盛土面より下、約3m前後の基盤層（卯辰山層か）近くまでその影響が及んでいた。試掘坑3は基盤層まで達しなかったが、丘陵からの崩落土とみられる粗砂が厚く堆積している。試掘坑4では基盤層より上、約1mの厚さで丘陵崩落土がみられた。試掘坑5は基盤層まで達しなかったが盛土面より下、約3mまではレンコン栽培の影響があり、その下は丘陵崩落土と考えられる。試掘坑6は試掘坑3と同じく基盤層まで達していないが、旧耕土より下は丘陵崩落土が厚く堆積している。試掘坑1～6では、遺構・遺物は確認できなかった。

試掘坑7～10は、建物の基礎などがあってトレンチを入れることが難しい範囲に設定した。試掘坑7では遺物包含層らしき黒褐色粘土層を確認し、11世紀代の土師器皿底部片1点を採集した。試掘坑8は観法寺ジンヤマ窯跡の前面に灰原等がないか確認するため設定した。灰層等は確認できず、12の平瓦が1点出土したのみである。凸面には格子叩き、凹面には布目痕がみられる。観法寺ジンヤマ窯跡の製品とみられ、7世紀末葉から8世紀前半頃であろう。試掘坑9・10は後述するトレンチ5で確認した古代遺構面の広がりを確認するため設定した。結果、遺構面の伸びは確認できたが遺物等の出土はなかった。

第1節 谷部の調査



第4図 試掘坑土層柱状図（1）

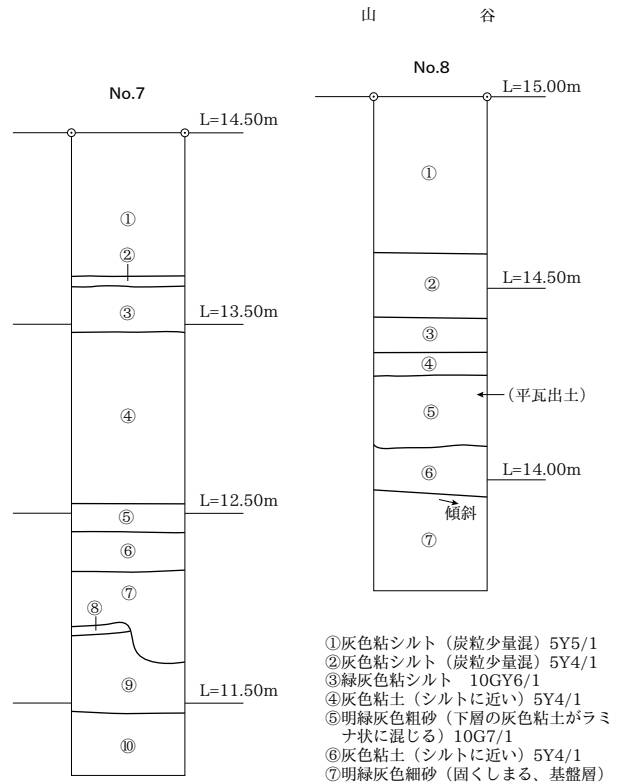
3. トレンチ (第9・10図)

トレンチは丘陵北側のトレンチ9および丘陵南側斜面のトレンチ4を除き、既に1～2m程度盛土がされている範囲に設定した。トレンチ5では一部分深掘りをしたが、基盤層までは達しなかった。

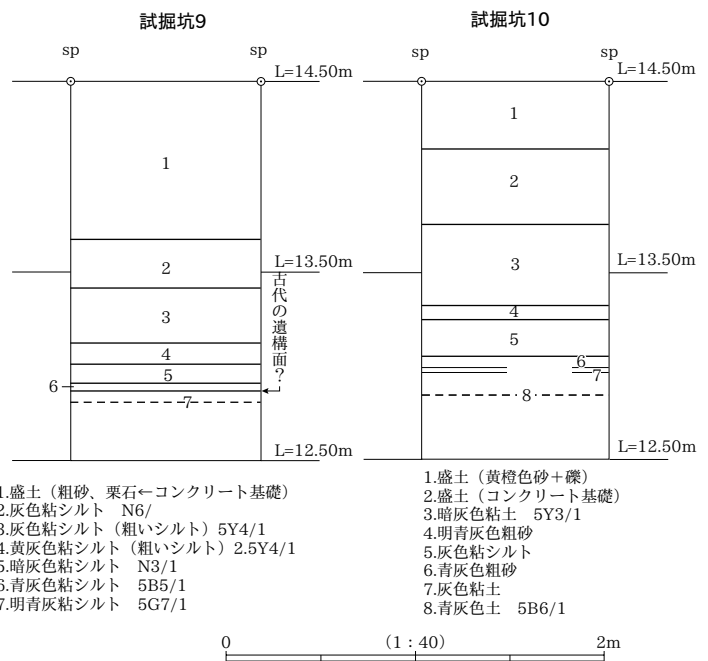
基本層序は、トレンチ4・9を除き、現地表面より1～2mの盛土、青灰色シルトないし灰色シルトの旧耕作土が1～1.2m、古代の遺物を含む暗青灰色粘土などの包含層が約20cm、その下の明青灰色粘シルトが古代の遺構検出面となる。この明青灰色粘シルト面は、丘陵南側裾部より南方向へ少しずつ高くなっていき、トレンチ7ではその比高差約1mを測る。トレンチ4・9では、約10～20cmの黄褐色細砂の表土、約10～20cmの風化した小礫を含む黄褐色細砂、そして大小の礫を多く含む明黄褐色細砂などの地山となる。

トレンチ1 幅約4m、長さ約20mのトレンチを設定した。盛土を取り除くと、遺物を包含する14層までは遺構・遺物とも確認していない。16層は溝状の遺構となると考えられる。17層の明青灰色粘シルト上面で遺構を確認した。確認したピットからは土師器有台碗とみられる高台部分のみが出土している。低い高台で中央に孔がある。11世紀末葉頃と考えられる。そのほか平瓦1、加賀焼1、ロクロ土師器1、非ロクロ土師器1を確認した。ロクロ土師器はいわゆるベタ高台皿である。

トレンチ2 幅約2m、長さ約7mのトレンチを設定した。1～3の遺物が出土した。1は土師器の甕で古墳時代初頭頃であろう。2は土師器の有台碗で、直線的な体部をもつ形態である。また、高台が剥離した跡には糸切痕がみえる。

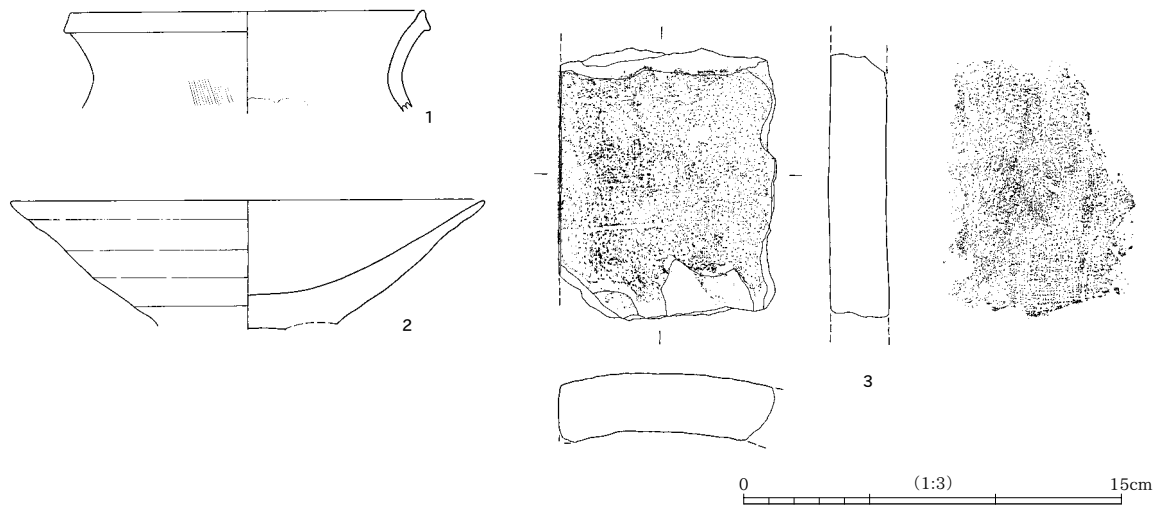


- ① 明褐色細砂 (盛土) 7.5YR5/6
- ② 褐色土 (表土) 10YR4/1
- ③ 黄灰色粘土 2.5Y6/1
- ④ 灰色粘土 (シルトに近い? 固い) 5Y6/1
- ⑤ 明青灰色シルトブロック混灰色粘土 5Y5/1
- ⑥ 灰色粘シルト (粗い) 5Y5/1
- ⑦ 明青灰色シルトブロック混灰色粘土 5Y6/1
- ⑧ 黒褐色粘土 2.5Y3/1
- ⑨ 灰色粘土 5Y5/1
- ⑩ 明緑灰色粘土 10G7/1



- 1. 盛土 (粗砂, 栗石←コンクリート基礎)
- 2. 灰色粘シルト N6/
- 3. 灰色粘シルト (粗いシルト) 5Y4/1
- 4. 黄灰色粘シルト (粗いシルト) 2.5Y4/1
- 5. 暗灰色粘シルト N3/1
- 6. 青灰色粘シルト 5B5/1
- 7. 明青灰色粘シルト 5G7/1
- 1. 盛土 (黄褐色砂+礫)
- 2. 盛土 (コンクリート基礎)
- 3. 暗灰色粘土 5Y3/1
- 4. 明青灰色粗砂
- 5. 灰色粘シルト
- 6. 青灰色粗砂
- 7. 灰色粘土
- 8. 青灰色土 5B6/1

第5図 試掘坑土層柱状図 (2)



第6図 トレンチ2出土遺物

11世紀後半～末葉頃であろう。3は平瓦である。凹面には布目圧痕、凸面には横方向のケズリがみられる。ほかには土師器片が6点、須恵器片が1点出土した。土師器片の内1点は14世紀後半～15世紀前半代の皿である。

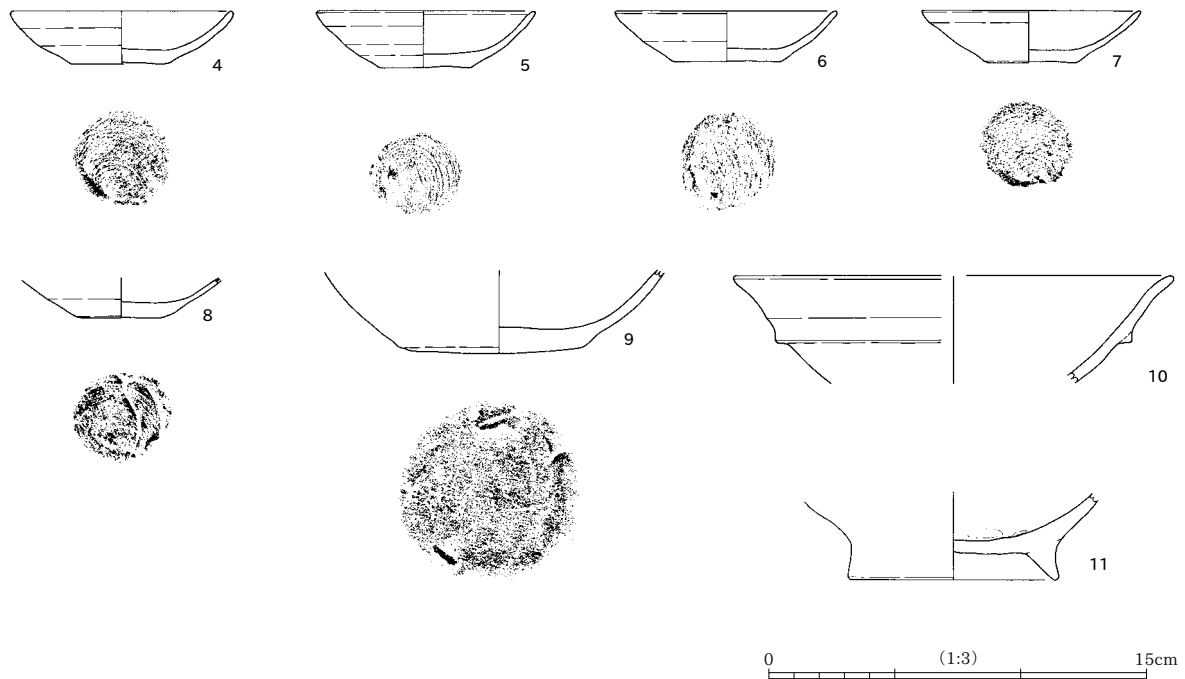
トレンチ3 観法寺ジンヤマ窯跡の前面に幅約1m、長さ約10mのトレンチを設定した。窯跡の灰原等の確認を目的とした。しかし、灰層等確認できなかった。深さ20～30cmほどで基盤層に達したこと、また丘陵斜面が急傾斜となっていることから、人為的な改変を大きく受けていることが明らかとなった。

トレンチ4 丘陵部中ほどにある緩傾斜で平坦面となっている部分にT字状にトレンチを設定した。深さ約50cmほどで基盤層に達する。それより上の層は丘陵からの崩落土とみられる。遺構・遺物とも確認していない。

トレンチ5 幅約4m、長さ約30mのトレンチを、トレンチ1と直交する形で設定した。中央部で深く掘り下げたが、基盤層には達しなかった。トレンチ1で遺構を確認した面を追いかけたところ、トレンチの両端で約50cmの比高差があった。5層直上からフイゴ羽口1点、珠洲焼片2点、土師器片5点、須恵器片3点が出土した。

トレンチ6 幅約4m、長さ約18mのトレンチと幅約2m、長さ約15mのトレンチを設定した。掘削当初より湧水が激しく、壁面の崩落も続いたため土層の堆積状況は観察できていない。トレンチ1・5と同じ面までは掘り下げた。明青灰色粘シルトの直上から、瓦片1点、須恵器片1点が出土した。ともに胎土の特徴から観法寺産とみられる。また、トレンチ北端ではトレンチ1の東端に延びる溝を検出した。

トレンチ7 幅約6m、長さ約38mのトレンチを、窯跡前面から南西方向に設定した。当初は窯に伴う灰原の検出を予想したが、その痕跡はみられなかった。平瓦片が1点出土したのみで、ほかにはまったく窯の痕跡はなかった。トレンチ3の状況と合わせ、窯跡の前面は大きく削平を受けている可能性が高く、すでに灰原等は失われてしまっていると考えられる。また、土師器埋納ピットを1基検出した。トレンチが調査中に崩壊したために詳細な記録は取っていないが、4～10の土師器が出土した。4～8は口径9cm以下、器高2cm前後の小皿である。9は深身の無台椀である。10は体部に



第7図 トレンチ7出土遺物

突帯を貼り付けるもので、おそらく有台碗になると考えられる。松任市剣崎遺跡や金沢市大友西遺跡にも類例がある。これらの土師器は11世紀後半代と考えられる。8は土師器有台碗で青灰色粘シルト直上から出土している。ほかに須恵器片1点、土師器片多数、製塩土器片2点が同じく青灰色粘シルト直上から出土した。

トレンチ8 幅約6m、長さ約17mのトレンチを、トレンチ7に直交する形で設定した。谷奥に向かって盛土が厚くなるため段状に掘り下げねばならず、調査は十分とはいえない。5・6層が溝の堆積土とみられ、7層上面に遺構面が存在する可能性がある。14は古瀬戸後期様式の碗型鉢である。付け高台で、内面にはトチの痕がある。15世紀代と考えられる。7層上面が中世後半期の遺構面になるかもしれない。なお、斜線部より下は遺構面ではなく掘削面である。

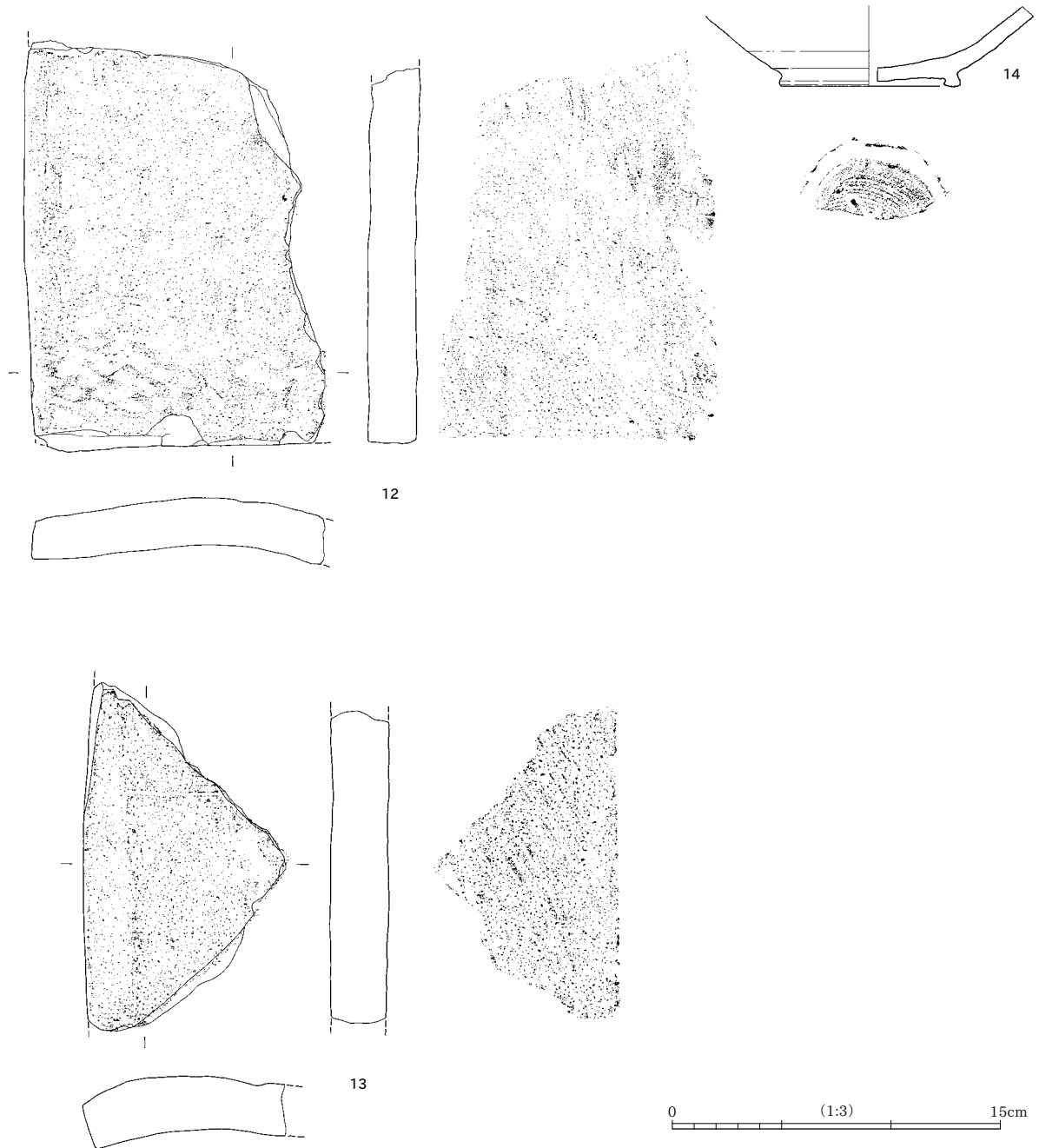
トレンチ9 幅約2.5m、長さ約25mのトレンチを、丘陵北側に設定した。遺構・遺物とも確認できず、土層の堆積状況をみると表土以下は丘陵崩落土で構成されている。トレンチ内から遺物は出土していないが、周辺からは須恵器の甕が2点表採されている。時期については不明だが、その内1点は辰口窯産とみられ、もう1点が観法寺産とすれば7世紀代のものであろう。

トレンチ10 幅約2.5m、長さ約16mのトレンチを設定した。トレンチ3と同様な状況が確認でき、すぐに基盤層が現れた。

4. 小 結

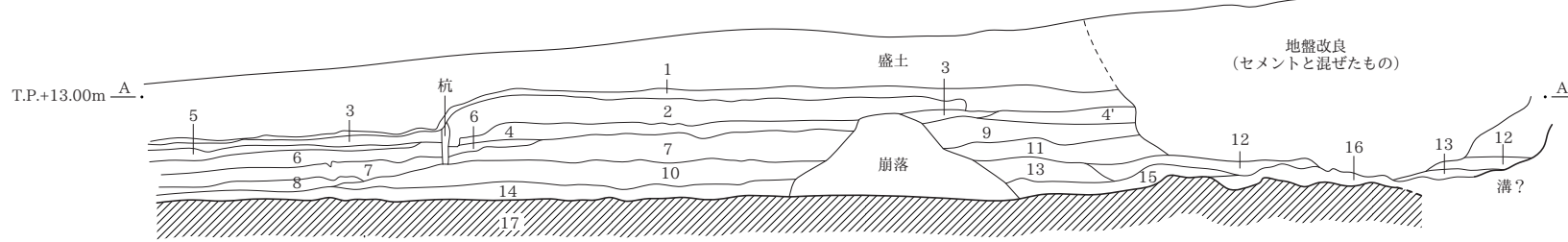
丘陵南側の谷部では、11世紀代と考えられる土師器の出土が多い。また、トレンチ7では土師器埋納ピットが検出できるなど古代末葉頃の集落跡があることはほぼ間違いない。瓦が生産されたと考えられる時代の遺物はわずかに出土しているが、その時期の集落跡が存在する可能性は低いと考えられる。中世後半の遺物も出土しているので、トレンチ8でみられた段状の土層堆積や溝状遺構がその

時期の遺構になるかもしれないが、集落跡があるかどうかは不明である。古墳時代初頭頃の土師器も出土しているが、現段階では丘陵部からの流れ込みと考えるべき。古代以前の遺跡がまったくないと断言できないが、現状ではその可能性は低いと考えられる。



第8図 その他の遺物

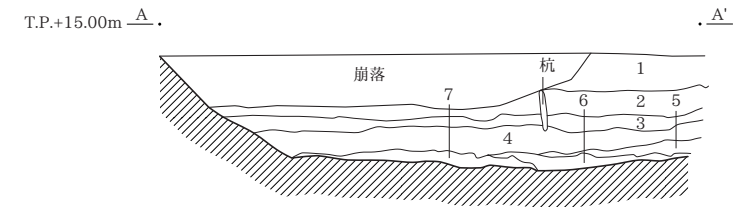
トレンチ1



トレンチ1

- 1 黒褐色土(表土) 10YR3/2
- 2 灰白色シルト(鉄分多く含む) 10YR7/1
- 3 青灰色シルト 5PB6/1
- 4 青灰色シルト(浅黄色細砂混じる) 10BG6/1
- 4' 灰黄色シルト(細砂に近い) 2.5Y6/2
- 5 明オーリーブ灰色シルト 2.5GY7/1
- 6 黄灰色シルト(細砂に近い) 2.5Y5/1
- 7 褐灰色シルト 7.5YR5/1
- 8 暗青灰色シルト 5B4/1
- 9 黄灰色粘シルト 2.5Y6/1
- 10 褐灰色粘シルト 10YR6/1
- 11 暗青灰色粘シルト(粗い、淡黄色の細かいやわらかい砂礫を含む) 5B4/1
- 12 黄灰色粘シルト 2.5Y5/1
- 13 青灰色粘シルト 5B5/1
- 13' 青灰色粘土(灰白色砂礫混じる) 5PB6/1
- 14 暗青灰色粘土(遺物含む) 5B4/1
- 15 青灰色細砂(やや粘質) 5B6/1
- 16 青灰色砂層 5PB6/1
- 17 明青灰色粘シルト(やわらかい礫混じる) 5BG7/1

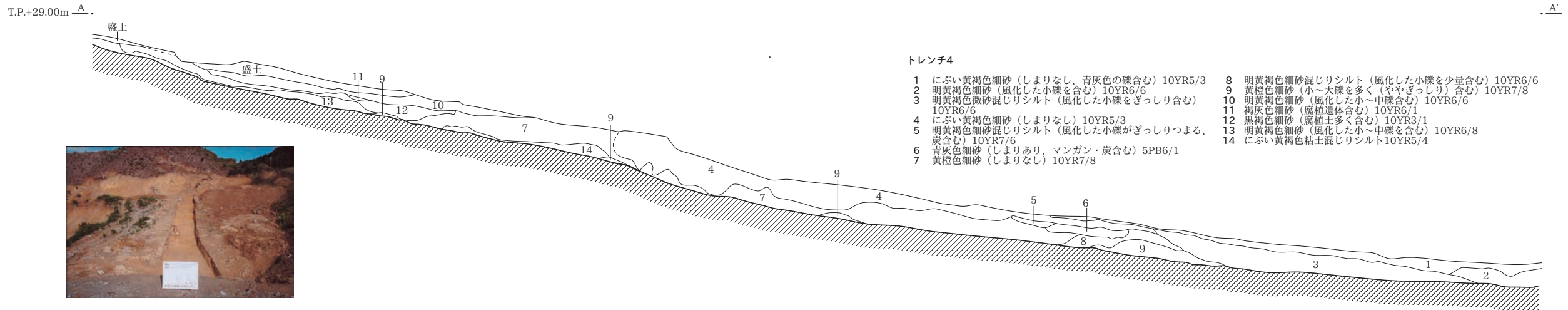
トレンチ2



トレンチ2

- 1 明緑灰色細砂(マンガン含む、鉄分沈着、盛土) 7.5GY7/1
- 2 緑灰色細砂混じりシルト(マンガン含む、ブロック含む) 10G6/1
- 3 灰色微砂混じりシルト(マンガン・炭含む) 7.5Y5/1
- 4 灰色シルト(瓦片、土器片含む、マンガン・炭含む、底に灰白色(5Y7/1)細砂を含む) 5Y5/1
- 5 緑灰色粘土混じり細砂(炭含む、暗緑灰色(5G4/1)細砂ブロック粒を少量含む) 7.5GY6/1
- 6 暗オーリーブ灰色シルト混じり粘土(炭含む) 2.5GY4/1
- 7 緑灰色粘土混じり細砂(暗緑灰色(5G4/1)細砂ブロック粒を含む) 5G6/1

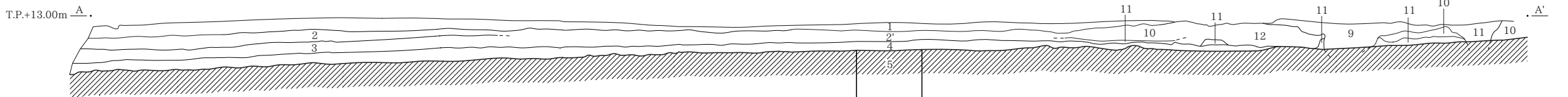
トレンチ4



トレンチ4

- 1 にぶい黄褐色細砂(しまりなし、青灰色の礫含む) 10YR5/3
- 2 明黄褐色細砂(風化した小礫を含む) 10YR6/6
- 3 明黄褐色微砂混じりシルト(風化した小礫をぎっしり含む) 10YR6/6
- 4 にぶい黄褐色細砂(しまりなし) 10YR5/3
- 5 明黄褐色細砂混じりシルト(風化した小礫がぎっしりつまる、炭含む) 10YR7/6
- 6 青灰色細砂(しまりあり、マンガン・炭含む) 5PB6/1
- 7 黄褐色細砂(しまりなし) 10YR7/8
- 8 明黄褐色細砂混じりシルト(風化した小礫を少量含む) 10YR6/6
- 9 黄褐色細砂(小~大礫を多く(ややぎっしり)含む) 10YR7/8
- 10 明黄褐色細砂(風化した小~中礫含む) 10YR6/6
- 11 褐灰色細砂(腐植遺体含む) 10YR6/1
- 12 黒褐色細砂(腐植土多く含む) 10YR3/1
- 13 明黄褐色細砂(風化した小~中礫を含む) 10YR6/8
- 14 にぶい黄褐色粘土混じりシルト 10YR5/4

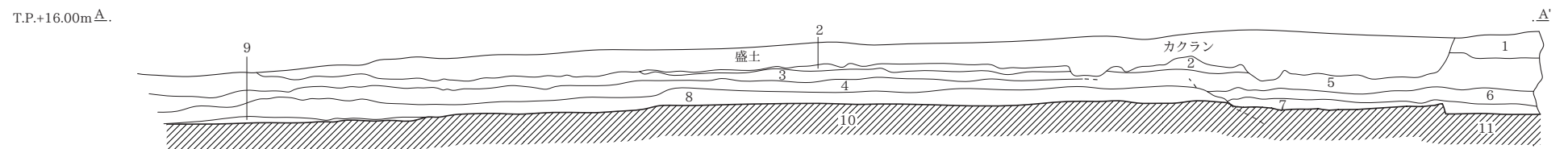
トレンチ5



トレンチ5

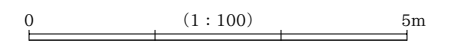
- 1 明青灰色シルト 5PB7/1
- 2 黄灰色シルト(やや粘質) 2.5Y6/1
- 2' 黄灰色シルト(粘性あり) 2.5Y6/1
- 3 灰白色シルト(粘性あり) N7/
- 4 暗青灰色粘シルト(もろい礫混じる) 5B4/1
- 5 明青灰色シルト 5BG7/1
- 6 灰色粘土
- 7 明青灰色粘シルト
- 8 淡茶色粘土(ピート層?)
- 9 灰色土(シルト、細砂、礫混じる、コンクリート混じる) 5Y5/1
- 10 灰色粘シルト N5/1
- 11 黄灰色粘シルト 2.5Y5/1
- 12 青灰色粘シルト 5PB5/1

トレンチ7-L

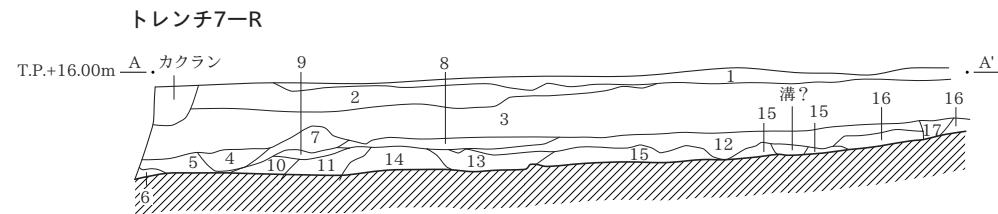


トレンチ7-L

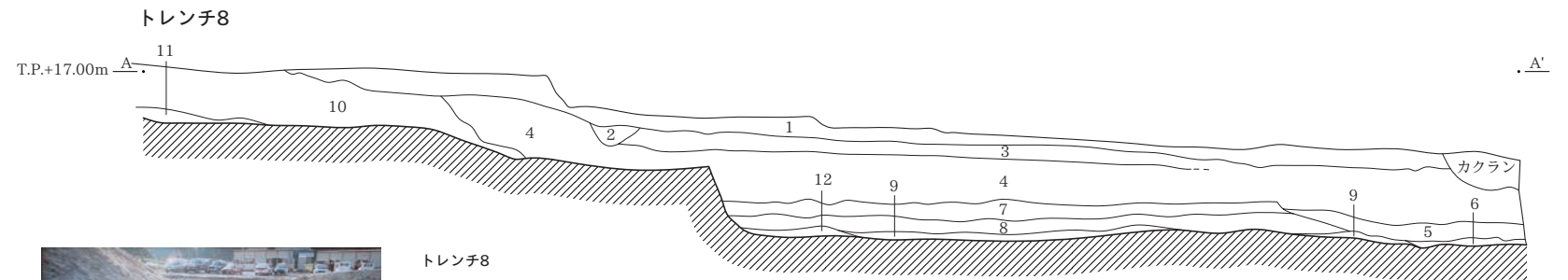
- 1 青灰色シルト(やや粘質) 10BG6/1
- 2 灰褐色土(表土) 7.5YR5/2
- 3 灰色シルト(やや粘質) 5Y6/1
- 4 黄灰色粘シルト 2.5Y6/1
- 5 灰色シルト(やや粘質、細かいやわらかい礫を大量に含む) 7.5Y5/1
- 6 黄灰色粘シルト(礫混じる) 2.5Y4/1
- 7 黄灰色粘シルト(礫混じる) 2.5Y5/1
- 8 黄灰色粘シルト(粘土に近い) 2.5Y5/1
- 9 灰色粘シルト(砂っぽい、砂が混じる、遺構埋土か) 7.5Y5/1
- 10 明緑灰色粘シルト 7.5GY7/1
- 11 暗青灰色粘シルト



第9図 トレンチ1~7 土層断面図

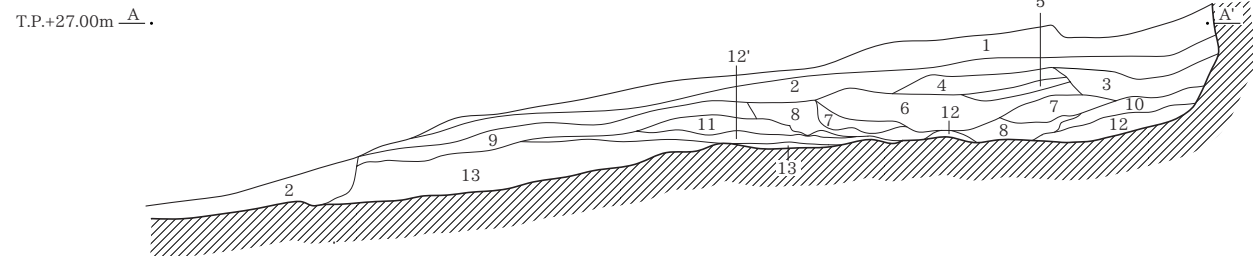


- トレンチ7-R
- 1 青灰色シルト（やや粘質）10BG6/1
 - 2 不明
 - 3 灰色シルト（やや粘質、細かいやわらかい砂礫を多く含む）7.5Y5/1
 - 4 不明
 - 5 黄灰色粘シルト（礫混じる）2.5Y4/1
 - 6 暗灰黄色粘土混砂層2.5Y4/2
 - 7~15 不明
- ※崩落により2.4.7~15層は不明。



- トレンチ8
- 1 青灰色シルト（やや粘質）10BG6/1
 - 2 オリブ灰色シルト5GY6/1
 - 3 灰色シルト（やや粘質、細かいやわらかい礫を多く含む）7.5Y6/1
 - 4 灰色シルト（やや粘質、細かいやわらかい礫を多く含む）7.5Y5/1
 - 5 黄灰色粘シルト（礫混じる）2.5Y4/1
 - 6 暗灰黄色粘土混砂層2.5Y4/2
 - 7 灰色シルト（粘性あり、細かいやわらかい礫多く含む）5Y4/1
 - 8 灰色粘シルト（細かいやわらかい礫はあまり入らない）5Y5/1
 - 9 灰色粘シルト5Y6/1
 - 10 灰色粘シルト（細かいやわらかい礫含む）5Y5/1
 - 11 明緑灰色礫層（やわらかい礫）10G7/1
 - 12 青灰色粗砂層5BG6/1

トレンチ9-1

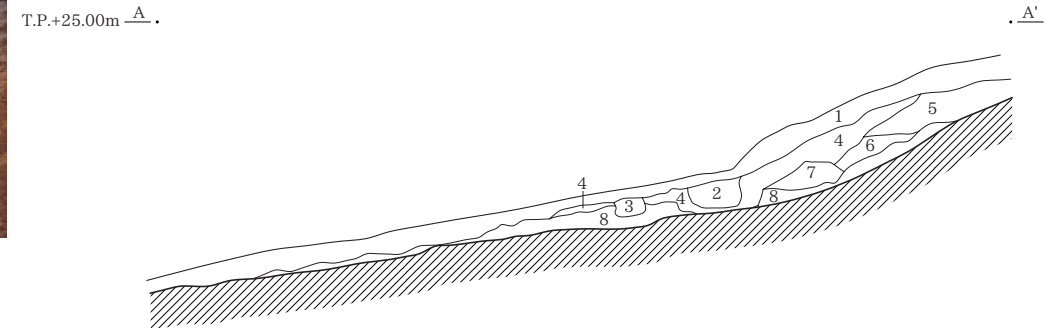


- トレンチ9-1
- 1 盛土（褐色土）
 - 2 表土（黒褐色土）
 - 3 にぶい黄褐色細砂（風化した小礫多く含む）10YR5/3
 - 4 にぶい黄褐色粘土（マンガン含む）10YR7/4
 - 5 にぶい黄褐色粘土（マンガン含む）10YR7/3
 - 6 灰白色微砂（マンガン含む、風化した小・中礫がぎっしりつまっている、土化している）10YR8/2
 - 7 にぶい黄褐色粘土（マンガン含む、炭化粒多く含む）10YR7/3
 - 8 にぶい黄褐色粘土（マンガン含む、風化した小・中礫を多く含む）10YR7/2
 - 9 にぶい黄褐色細砂（しまりあり、マンガン含む、炭化粒を含む）10YR6/4
 - 10 灰白色粘土（マンガン含む、炭化粒を多く含む）10YR7/1
 - 11 にぶい黄褐色細砂（マンガン含む、炭化粒含む）10YR7/3
 - 12 灰白色粘土（マンガン含む、炭化粒多く含む、底に厚さ5cm程度のマンガン層（7.5YR7/8）が沈着）2.5YR8/2
 - 12' 12に風化した小・中礫を多く含む
 - 13 明黄褐色細砂（マンガン含む、炭化粒含む、小〜大礫を含む）10YR6/6

トレンチ9-2



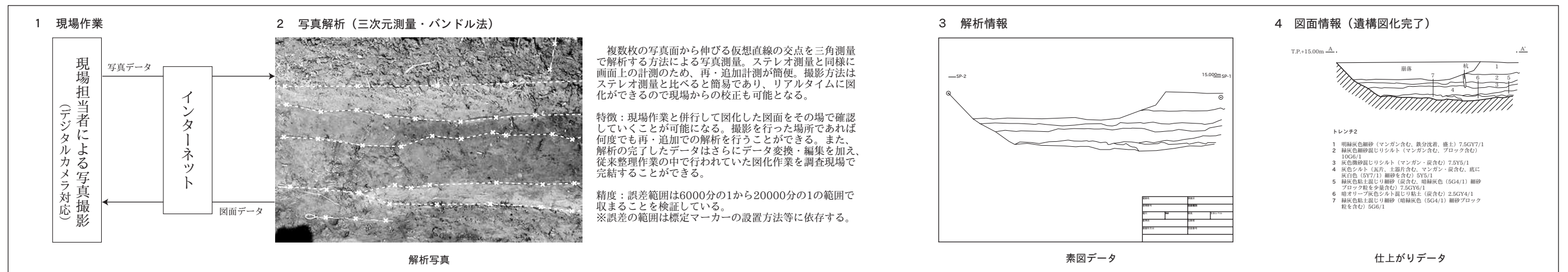
- トレンチ9-2
- 1 にぶい黄褐色細砂（表土）10YR4/3
 - 2 黒褐色細砂（溝か穴？）10YR3/1
 - 3 にぶい黄褐色細砂（しまりなし、礫含む、溝か穴？）10YR4/3
 - 4 にぶい黄褐色細砂（小礫を少量含む）10YR5/3
 - 5 にぶい黄褐色細砂（小礫を少量含む）10YR6/4
 - 6 にぶい黄褐色細砂（小〜中礫を多く含む）10YR6/4
 - 7 褐色細砂（小〜中礫を含む）10YR6/1
 - 8 黄褐色細砂（小〜中礫をぎっしり多く含む）10YR7/8



第10図 トレンチ7~9 土層断面図

0 (1:100) 5m

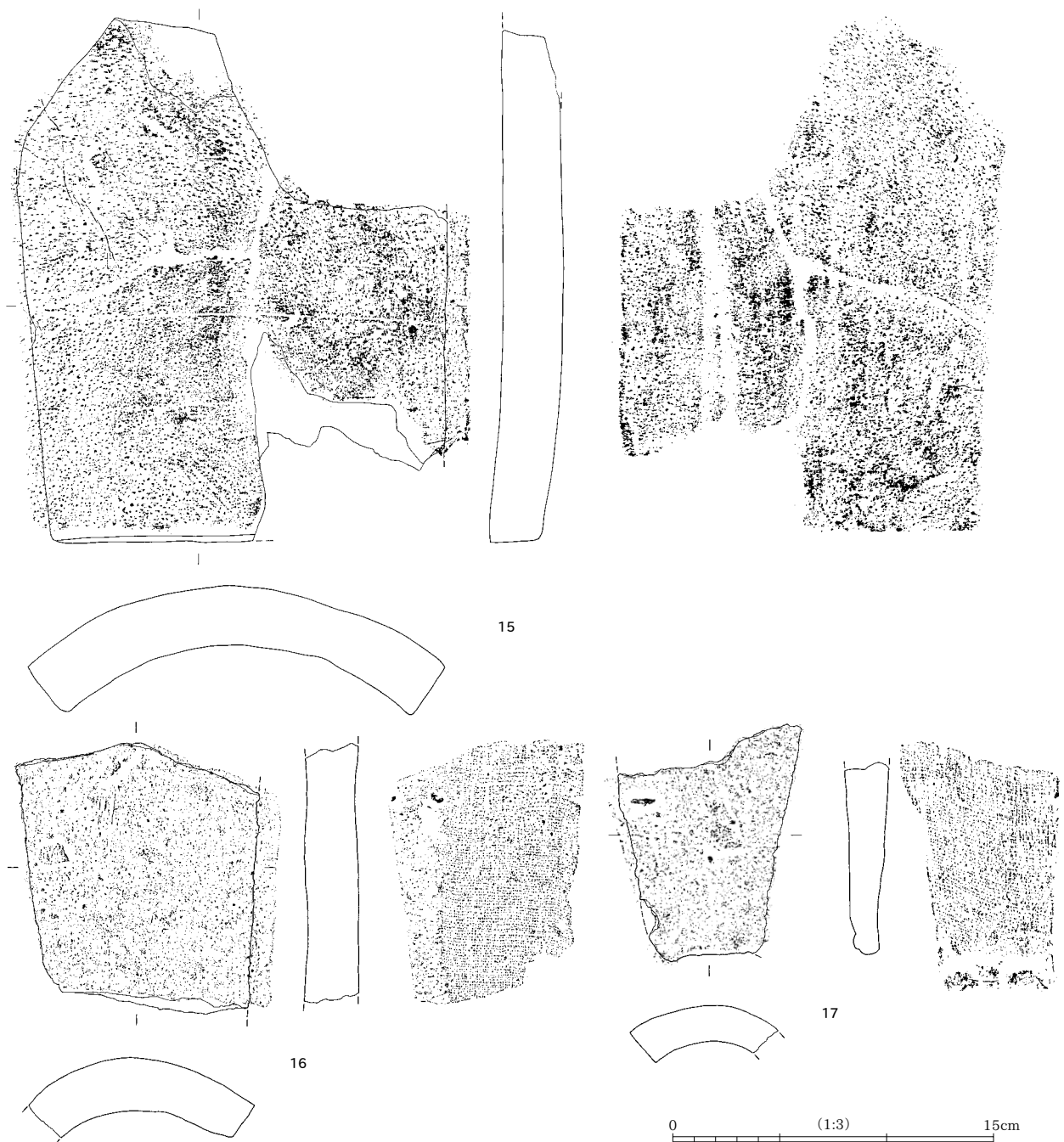
※県埋蔵文化財センターでは試験的に以下のような作業を行った。



第2節 丘陵斜面の調査（観法寺ジンヤマ窯跡・観法寺ジンヤマ横穴）

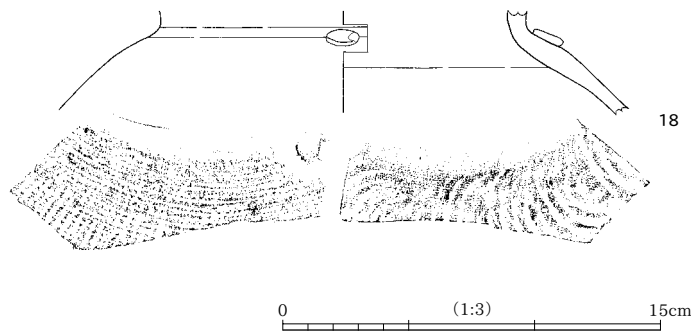
丘陵南側の観法寺ジンヤマ窯跡が発見された斜面に、旧水田面からバックホーのアームが届く範囲で表土除去を行った。アームは窯跡の露出部までは届かなかったが、ほかに窯跡があれば灰層等が検出できるものと考えた。

確認できた遺構は、観法寺ジンヤマ窯跡の焚口部にあたると考えられる部分のみである。窯に伴う灰層はまったくなかった。また、焚口部付近にはテラス面は存在せず、現状では窯に伴う作業を行う



第11図 観法寺ジンヤマ窯跡推定焚口部出土瓦

空間がまったく存在していない。トレンチ3においてもすぐに基盤層が露出したことなどから、丘陵斜面は地すべり等も考慮すべきだが、かなり人為的な改変を受けていることが明らかである。また、推定焚口部から窯体露出部までの傾斜等から、観法寺ジンヤマ窯跡は地下式の構造といえよう。遺物は、15の平瓦と、16・17の丸瓦が出土した。いずれも凸面を横ケズリしている。15には格子叩きが施されている。以上の特徴などから7世紀末葉から8世紀前半頃と推定しておく。また県文化財課が行った窯の確認時に、窯壁、瓦片、須恵器片を採集していることから、瓦陶兼業窯である可能性が高い。18は窯体露出部上方斜面で採集した須恵器の甕肩部破片である。把手の退化したボタン状の貼り付けがあり、7世紀後半と考えられる。胎土の特徴から観法寺産と考えられ、別の窯跡が上位に存在している可能性も考えられたが、その痕跡は確認できなかった。物理探査でもほかに窯跡が存在する可能性はきわめて低いという結果が出た。よって観法寺ジンヤマ窯跡は1基単独の可能性が高まった。



第12図 観法寺ジンヤマ窯跡周辺遺物

丘陵北側の斜面においてもバックホーのアームの届く範囲で表土を除去した。観法寺ジンヤマ横穴以外の遺構は確認できなかった。物理探査も行ったが、遺構が存在する可能性はきわめて低いという結果になった。遺物は、弥生土器・須恵器を採集した。おそらく丘陵上部よりの流れ込みと考えられる。南側斜面同様かなり斜面が削られている状況が明らかとなった。

報告番号	実測番号	出土位置	出土層位等	材質等	器種	口径最大長(mm)	器高最大幅(mm)	底径最大厚(mm)	色調	胎土	産地	備考
1	3	トレンチ2		土師器	甕	140	※	※	黄灰色	海面骨針含む	在地?	
2	9	トレンチ2	青灰色粘シルト直上	土師器	有台椀	186	※	※	灰白色	海面骨針含む	在地?	
3	7	トレンチ2		瓦	平瓦	108	86	23	灰白色		観法寺	
4	26	トレンチ7	土師器埋納ビット	土師器	皿	86	21	38	灰黄色	海面骨針含む	在地?	底部回転系切右回転。
5	25	トレンチ7	土師器埋納ビット	土師器	皿	85	23	37	灰黄色	海面骨針含む	在地?	底部回転系切右回転、内面黒く変色。
6	24	トレンチ7	土師器埋納ビット	土師器	皿	88	20	42	灰黄色	海面骨針含む	在地?	底部回転系切右回転。
7	27	トレンチ7	土師器埋納ビット	土師器	皿	85	21	36	灰黄色	海面骨針含む	在地?	底部回転系切右回転。
8	30	トレンチ7	土師器埋納ビット	土師器	皿	※	※	35	灰黄色	海面骨針含む	在地?	底部回転系切右回転。
9	29	トレンチ7	土師器埋納ビット	土師器	無台椀	※	※	70	灰黄色	海面骨針含む	在地?	底部回転系切、磨耗著しく回転方向等不明。
10	28	トレンチ7	土師器埋納ビット	土師器	有台椀?	※	※	※	灰黄色	海面骨針含む	在地?	突帯が体部をめぐる。
11	2	トレンチ7	青灰色粘シルト直上	土師器	有台椀	※	※	83	浅黄橙色	海面骨針含む	在地?	
12	8	試掘坑8	青灰色粗砂	瓦	平瓦	188	134	22	灰色	海面骨針含む	観法寺	
13	10	表採		瓦	平瓦	157	90	23	灰色	海面骨針含む、砂粒多い	観法寺	坂野氏採集
14	6	トレンチ8		陶器	碗型鉢	※	※	77	灰白色 釉:オリ ープ黄色	砂粒含まない	瀬戸	古瀬戸後期様式、付け高台、系切痕残す、トチの痕あり。
15	11	焚口部?		瓦	平瓦	245	201	83	灰白色	海面骨針含む、砂粒多い	観法寺	
16	13	焚口部?		瓦	丸瓦	126	113	25	灰色	海面骨針含む、砂粒多い	観法寺	
17	12	焚口部?		瓦	丸瓦	111	85	20	灰色	海面骨針含む、砂粒多い	観法寺	
18	5	窯跡上方斜面		須恵器	甕	※	※	※	灰色	細砂含む	観法寺?	

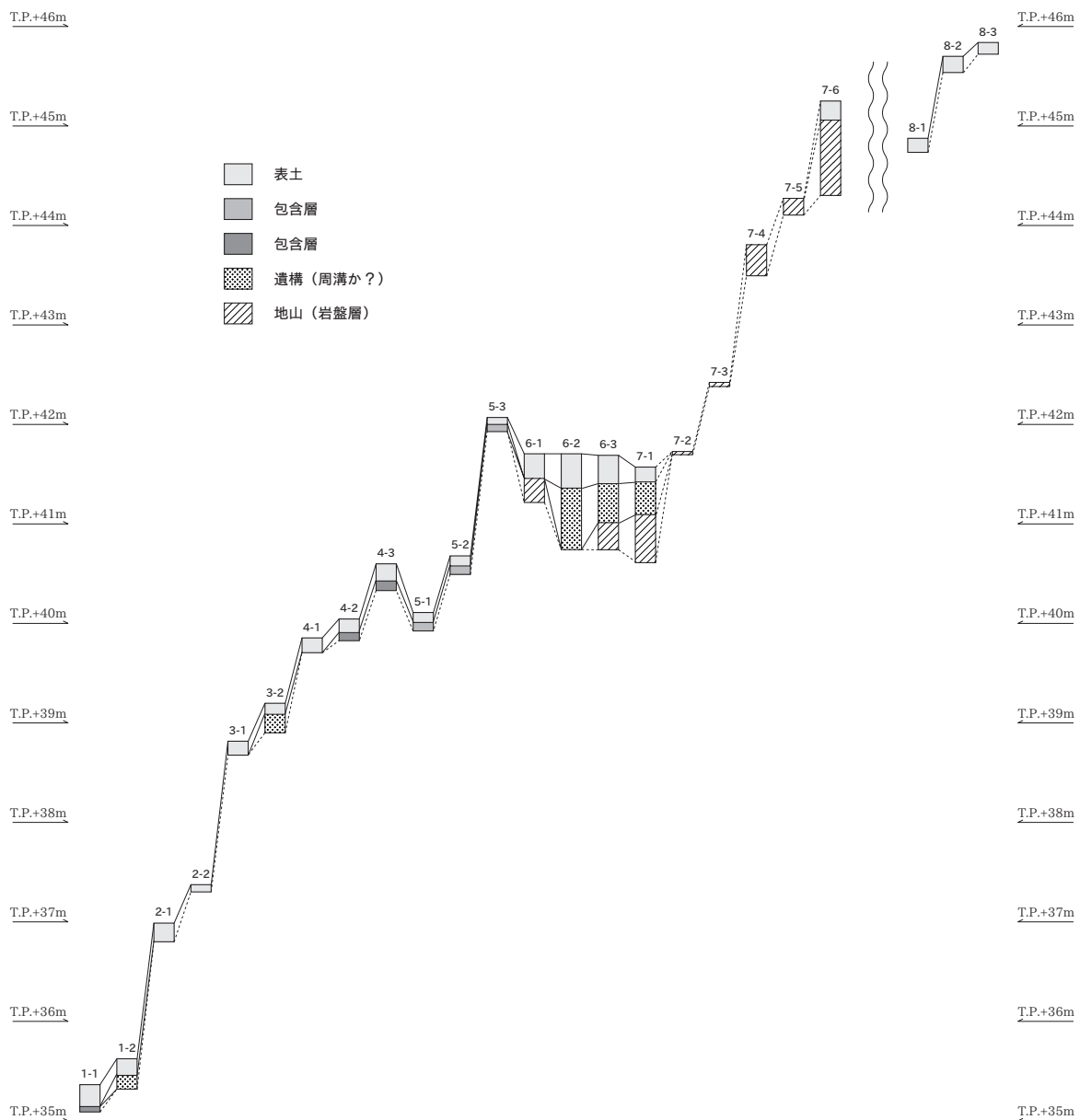
計測値：土器類は口径・器高・底径。瓦は最大長・最大幅・最大厚。※は計測不能。

第2表 谷部丘陵斜面遺物観察表

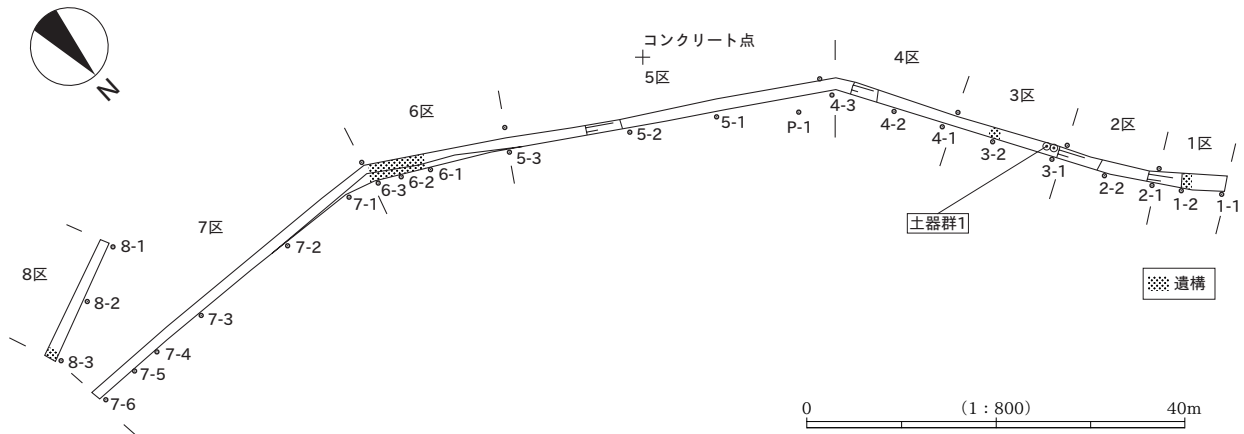
第3節 丘陵部の調査（観法寺墳墓群）

1. 概要

本調査は丘陵部尾根上における遺跡（観法寺墳墓群）の確認を目的とする。当該調査対象地は北東方向約300mに位置する観法寺古墳群等の調査成果から勘案して、墳丘墓・古墳・山城等の可能性が示唆される。そのため、調査を行うに際して、丘陵部尾根のほぼ中央に、東西方向に伸びる幅1m・総延長124mのトレンチを設定した。このトレンチは総延長が長いから、トレンチ内を便宜的に分け、調査を行っている。すなわち、遺物が出土した箇所からも遺跡の性格が窺える可能性があるため、出土範囲を把握する必要があると判断し、主に傾斜やトレンチの変換点に点を設けて、西方位から順に1～7区と分けて遺物を採集した。なお、7区約10m南の位置に東西方向に伸びる幅1m・



第13図 土層断面柱状模式図



第14図 トレンチ平面図

長さ12mのトレンチを設定して、これを8区とした。

また、土層堆積を把握するため、各トレンチ間の要所に柱状断面図を作成した。平面調査では、地山面（岩盤層）まで人力掘削し、遺構の確認を行った。

2. 基本層序

重機によって既に地山まで削平された7区を除いて、1区～8区は約10～20cmの表土（灰黄褐色細砂）が堆積している。表土には腐葉土などの有機物が包含しており、その中には中世の土師器皿、弥生土器片等が出土した。それを除去すると、遺物包含層（にぶい黄褐色細砂）が所々に認められるが、これは遺構の埋土、盛土の可能性がある。それより下層では、風化した礫を多く含んだ地山（明黄褐色細砂）を確認した。なお、7区は、既に重機によって軟質岩盤の地山（にぶい黄褐色細砂）が露出していたので、それより上層に至っては不明である。

3. 調査成果（第14・15・16図）

一つのトレンチを1～7区に便宜的に分けて調査を行ったため、各調査区ごとに遺構、遺物などの成果を合わせて報告する。調査区平面図、柱状断面図、遺物実測図、遺物観察表を併せて参照されたい。

1区 表土下約20cmで礫を多く含む地山になる。西側ではそれらの間に小片の遺物を包含する層を確認している。1～2区にかけては上方へ急傾斜となる。その付近に遺物包含層を切る形で、なだらかな落ち込みを確認している。これは平面においても南北方向に伸びると考えられるため、溝と想定した。立地、地形、出土遺物から、墳墓の周溝の可能性がある。遺物は弥生時代終末期～古墳時代初頭の壺の頸部（19）、小片が出土している。

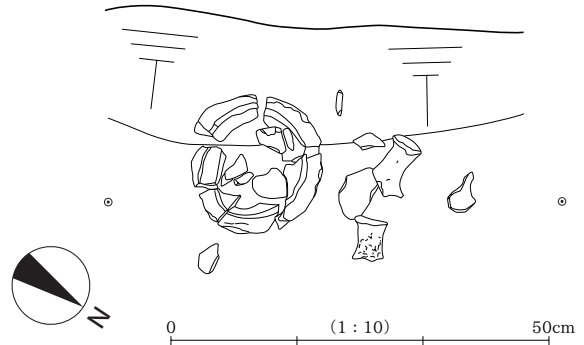
2区 表土下約10～20cmで礫を含む地山になる。狭い範囲であるが、やや平坦であり、2～3区にかけて上方へ急傾斜となる。遺物はなし。

3区 表土下約15cmで礫を含む平坦な地山になる。西側では、層厚5cm前後の遺物包含層が認められ、この地点から土器群1（第15図）を検出した。2区付近の平坦地で、中礫を含む軟質岩盤の地山直上、T.P + 40.2m前後の高さにある。土器群1には特殊器台、高杯の脚部等がある。特殊器台（20）は受け部が逆さの状態出土した。その脚部や破片、その他の高杯の脚部等（21～23）は近辺で出土している。時期は弥生時代終末から古墳時代初頭と考える。なお、中央部から東は上方へ緩傾

斜となる。また、その西側付近で溝を検出している。これは断面の観察をすると、なだらかな落ち込みが確認でき、平面でも南北方向の遺構が確認できたため、遺構の性格を溝と想定した。出土遺物、立地などから墳墓の周溝の可能性はある。



装飾器台出土状況（土器群1）



第15図 装飾器台出土状況（土器群1）実測図

4区 表土下約15cmで、中礫を含む地山が確認できた。やや平坦で、東の方へ向かってなだらかに上方へ傾斜していく。ここでは南北方向の溝を確認している。これは断面観察から、当該調査区東側で落ち込みが認められ、また平面でも確認できたため、性格を溝と想定した。立地などから墳墓の周溝、山城の堀等の可能性がある。遺物はなし。

5区 表土下約10cmで、にぶい黄褐色細砂層が認められ、その中からは遺物が出土している。なだらかな起伏となっており、鞍部のような地形となる。当該調査区からの遺物は弥生土器片（24、25）が出土している。その中には赤彩が施されている小片（25）がある。また、陶器の播鉢の破片（26）が出土している。

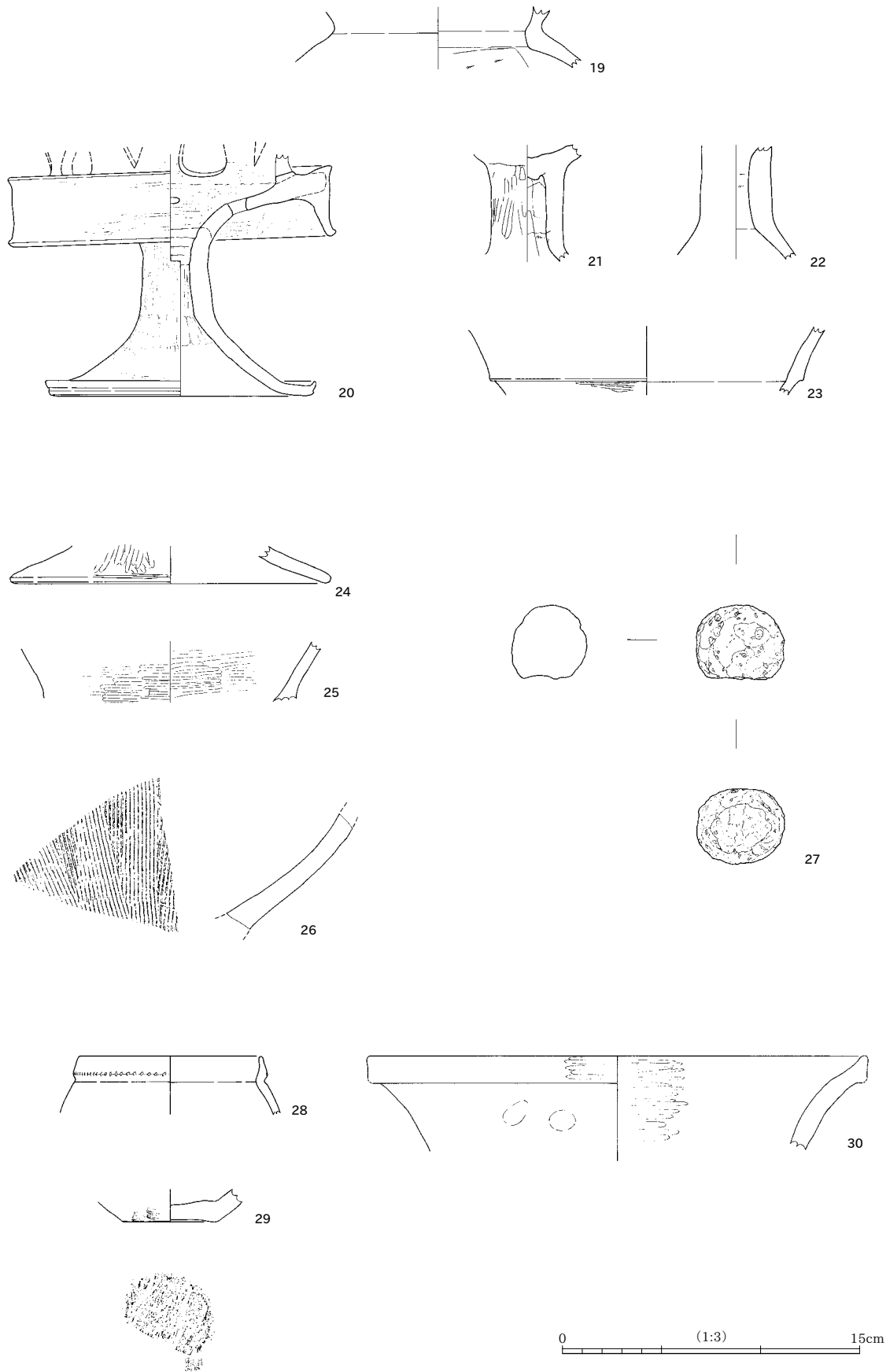
6区 トレンチを設定した箇所は、上層を重機によって削平されていたので、既に地山が露出していた。下方へ傾斜していく。当該調査区北側で表土から地山までの堆積層を観察することができた。表土下約10～30cmで、にぶい黄褐色細砂層が落ち込んでいくのがわかり、溝があったと推定できる。墳墓の周溝、山城の堀などの可能性がある。それより下層は軟質岩盤の地山となる。遺物はなし。

7区 軟質岩盤の地山が露出していたため、上層は不明である。上方へ傾斜していく。中央部で東西方向の岩盤層の節理が観察できた。遺物はなし。

8区 表土下約15cmで、中礫を含む軟質岩盤の地山になる。やや平坦となる。当該調査区東側で、遺構もしくは落ち込みを平面で確認している。用途不明石器（27）、土器の小片が出土した。

表 採 資 料

丘陵部尾根上または、そこまで辿り着くまでの道からも遺物が出土している。前者からは、弥生土器の壺の口縁部から肩部まで残存した小片（28）、弥生土器の底部片（29）を採集した。28は、口縁部下方に刻み目をめぐらしている。後者からは壺の口縁部の小片（30）を採集している。内外面に赤彩を塗布しており、精製の作りであったことが推測できる。これらの時期は弥生時代終末期～古墳時代初頭と考える。



第16図 丘陵部出土遺物

観察表凡例

- ・法量について、推定値は部位を表記して()、残存値は()にて記載。
- ・胎土は、粗、密、緻密に分類して表記。胎土中の密度を表す。
- ・調整は、内面、外面を表記。
- ・色調は、標準土色帳に準拠する。
- ・胎土は、粗、密、緻密に分類して表記。胎土中の密度を表す。
- ・焼成は良、良好に分類して表記。焼成による硬度度合いを表す。

報告番号	実測番号	出土地区	層位・遺構	器種	法量 (cm)	調整	色調	胎土	焼成	備考
19	21	丘陵部 1区	表土	弥生系土器 壺	* (3.3)	内) ヨコナデ、ケズリ 外) ヨコナデ	内) 5YR6/6 (橙) 外) 5YR6/8 (橙)	密 0.2cm以下の砂粒を含む。	良	
20	1	丘陵部 3区	土器群 1	弥生系土器 裝飾器台	受け部 16.3 底部 12.5	内) ヘラミガキ、ナデ 外) ヘラミガキ、ナデ	内) 10YR6/4 (にぶい黄橙) 外) 10YR6/4 (にぶい黄橙)	密 0.2cm以下の砂粒を含む。海綿骨針含む。	良好	涙滴状透孔は、5対10個、受部には円形透孔が4個穿たれている。
21	4	丘陵部 3区	土器群 1	弥生系土器 高杯	脚部 5.6	内) ケズリ 外) ヘラミガキ	内) 10YR7/4 (にぶい黄橙) 外) 10YR7/4 (にぶい黄橙)	密 0.2cm以下の砂粒を含む。海綿骨針含む。	良	
22	15	丘陵部 3区	表土	弥生系土器 高杯	脚部 3.6	内) ケズリ、ナデ 外) 調整不明	内) 7.5YR7/6 (橙) 外) 7.5YR7/6 (橙)	密 0.2cm以下の砂粒を含む。	良	内面ケズリは反時計回り
23	14	丘陵部 3区	土器群 1	弥生系土器 壺	口縁部(15.8)	内) ナデ 外) ヘラミガキ、ナデ	内) 7.5YR6/6 (橙) 外) 7.5YR6/6 (橙)	密 0.2cm以下の砂粒を含む。海綿骨針含む。	良好	
24	17	丘陵部 5区	表土	弥生系土器 高杯	脚裾部(15.6)	内) ヨコナデ 外) ヘラミガキ、ヨコナデ	内) 10YR7/4 (にぶい黄橙) 外) 10YR7/4 (にぶい黄橙)	密 0.2cm以下の砂粒を含む。海綿骨針含む。	良	
25	16	丘陵部 5区	表土	弥生系土器 壺	口縁部 12.9	内) ヘラミガキ 外) ヘラミガキ	内) 5YR6/6 (橙)、 5YR7/6 (明赤褐) 外) 2.5YR6/4 (にぶい橙)	密 0.2cm以下の砂粒を含む。	良好	内外面に赤彩塗布。
26	22	丘陵部 5区	表探	陶器播鉢	* (5.8)	内) ハケ目 (5.5条/cm) 外) 回転ナデ	内) 10R4/1 (暗赤灰) 外) 5Y4/2 (灰オリーブ)	緻密 0.5cm以下の砂粒を含む。	良好	外面を施釉。
28	19	丘陵上	表探	弥生系土器 甕	口縁部 (9.2)	内) ヨコナデ 外) ヨコナデ、キザミ目	内) 5YR6/6 (橙) 外) 5YR6/6 (橙)	密 0.2cm以下の砂粒を含む。海綿骨針含む。	良	
29	20	丘陵上	表探	弥生系土器 壺	底部 4.6	内) ナデ、指頭圧痕 外) 板状工具によるナデ	内) N5/0 ~ N6/1 (灰) 外) 2.5Y7/3 (浅黄)	密 0.2cm以下の砂粒を含む。海綿骨針含む。	良好	
30	18	丘陵部に係る道	表探	弥生系土器 壺	口縁部(25.0)	内) ヘラミガキ 外) ヘラミガキ、ヨコナデ、指頭圧痕	内) 10YR5/4 (赤褐) 外) 5YR5/4 (にぶい赤褐)、 7.5YR6/4 (にぶい橙)	密 0.2cm以下の砂粒を含む。海綿骨針含む。	良好	内外面に赤彩塗布。

報告番号	実測番号	出土地区	層位・遺構	石材	法量 (cm)	重量 (g)	色調	備考
27	23	丘陵部 8区	表土	不明	3.7×4.4×3.8	62.2	7.5YR6/4 ~ 5YR6/4 (にぶい黄橙)	一部に窪みあり。

第3表 丘陵部遺物観察表

4. 小 結

丘陵部では、当該調査では遺跡の確認のみの調査である。将来、発掘調査を行えば、より明確に成果が上がるであろう。

本調査区では、弥生時代終末～古墳時代初頭の土器が出土していること、1区、3区、4区、6区で検出した遺構が墳墓の周溝と考えられることを勘案すると、墳丘墓もしくは古墳の可能性はある。暫定的だが、少なくとも4基あると考えたい。ただし、3～5区の周囲が平坦地となっている事に注目すると、山城があった可能性もあり、視野に入れるべきであろう。

当該調査区の北方の観法寺古墳群、観法寺谷遺跡、梅田B遺跡などを含めた周辺地域の地域史を考える上で、今回の調査成果は重要であると評価したい。

第4章 物 理 探 査

第1節 レーダー探査

送信アンテナから地下に放射された電磁波は、地下の地層や遺構の境界面で反射する。それを地表の受信アンテナで捉える。送信アンテナを移動させ測定することによって、地下の状況を把握するものである。

横穴墓のように空洞であるものには有効であると考え、丘陵北側斜面と丘陵頂部に展開すると考えられる、墳墓群に対して探査を行った。

丘陵北側斜面では、既に発見されていた横穴墓以外にそれらしき反応は見られなかった。一部に遺構のような反応があったが、現地で再度確認した結果、地層境界面が強く反応したものと結論づけた。

丘陵頂部では、トレンチ調査で検出した周溝のほか、尾根を大きく横断する溝状の反応があった。これは、山城の堀切の可能性がある。



レーダー探査の様子

第2節 磁 気 探 査

地表面付近の地磁気を測定し、その磁気分布の中から遺構や遺物による磁気異常パターンを検出することによって、遺構・遺物の埋蔵位置を推定するものである。

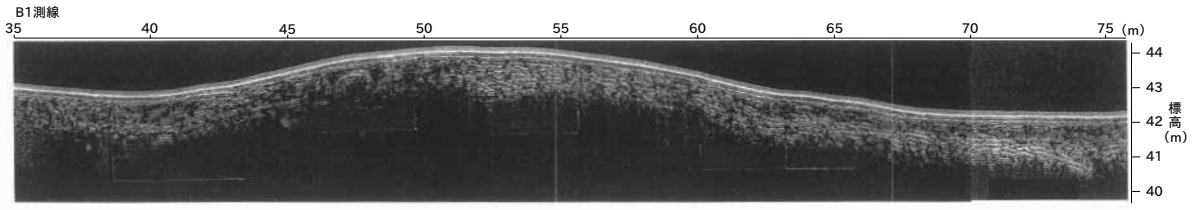
窯跡や炉跡のように一定の温度以上に熱せられた土は、新たな磁性の方向を獲得する。それを熱残留磁気という。その部分は周囲の土より磁気強度が高く記録される。その特性から磁気探査は、窯跡の位置確認に良く使われる方法である。

窯跡が確認された南側斜面に対して磁気探査を行った。その結果、磁気異常が確認された場所は数箇所あったが、窯跡を示すパターンはなく、1基単独である可能性が高まった。

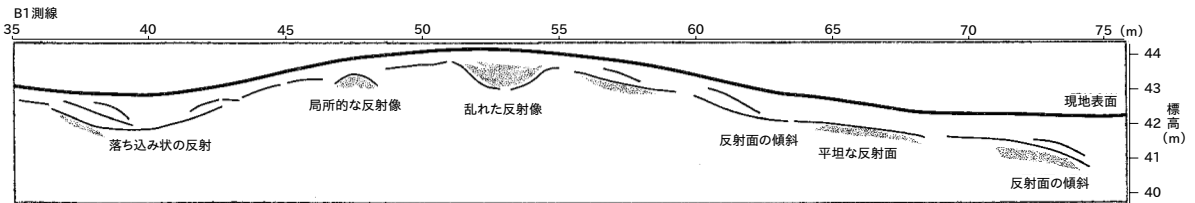


磁気探査の様子

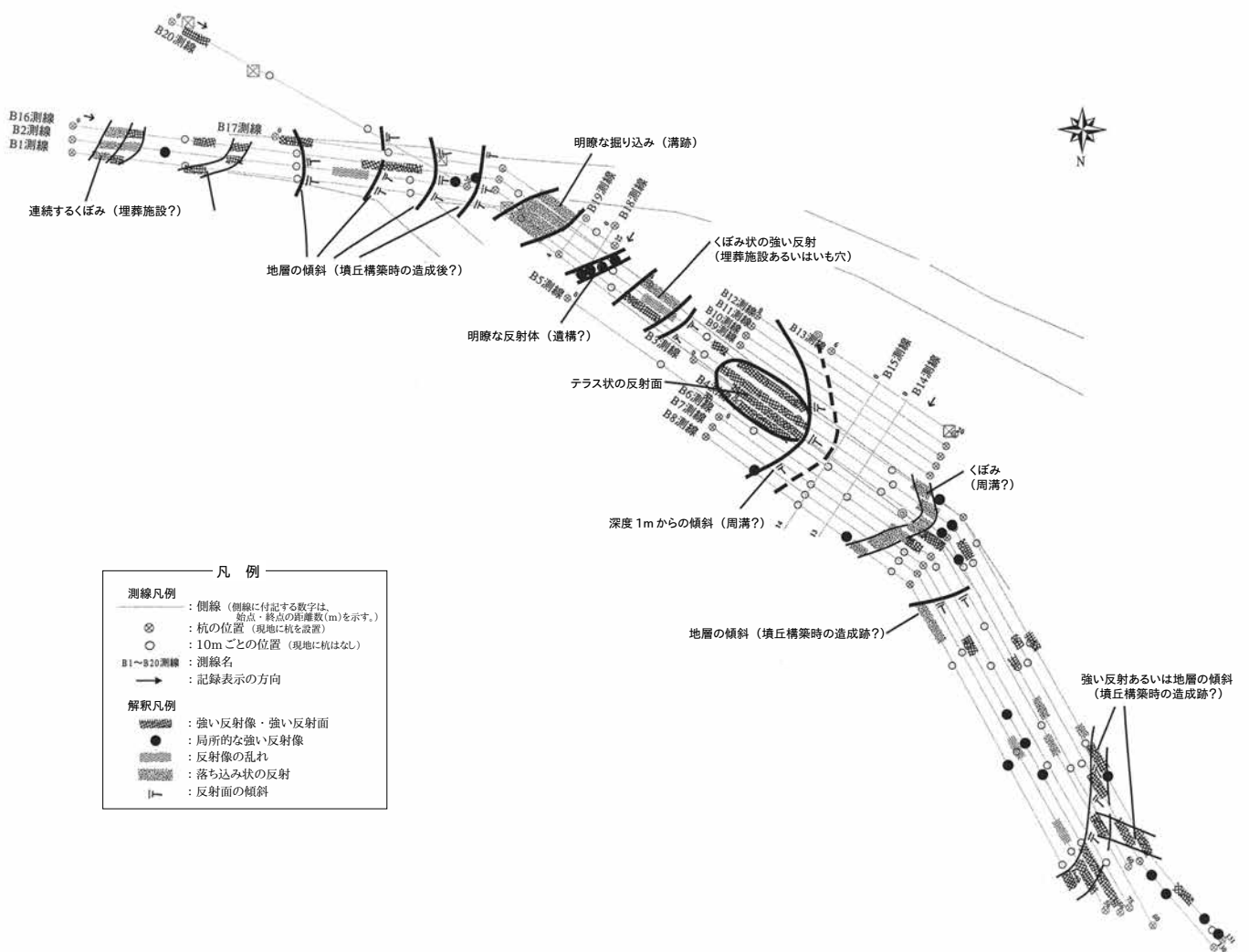
地下レーダー記録



解釈結果

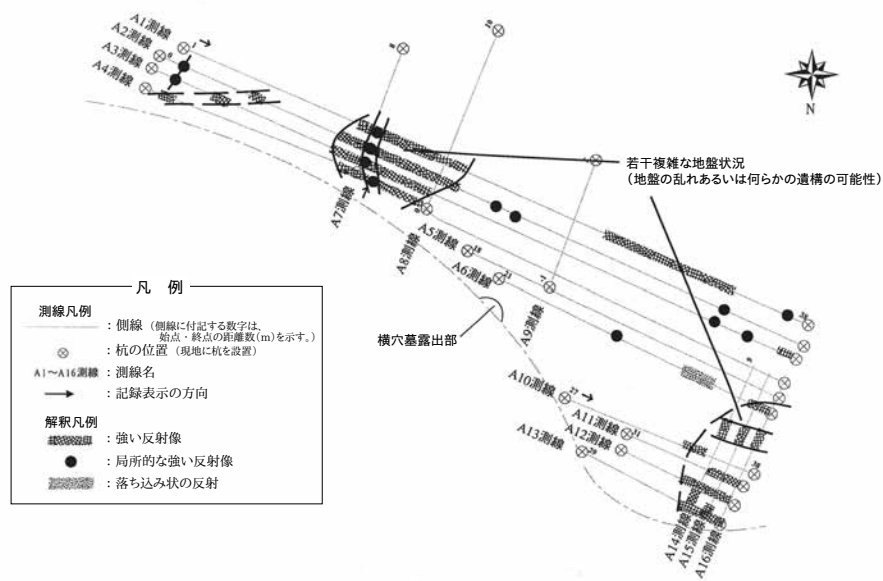


第17図 地下レーダー探査の記録と解釈結果



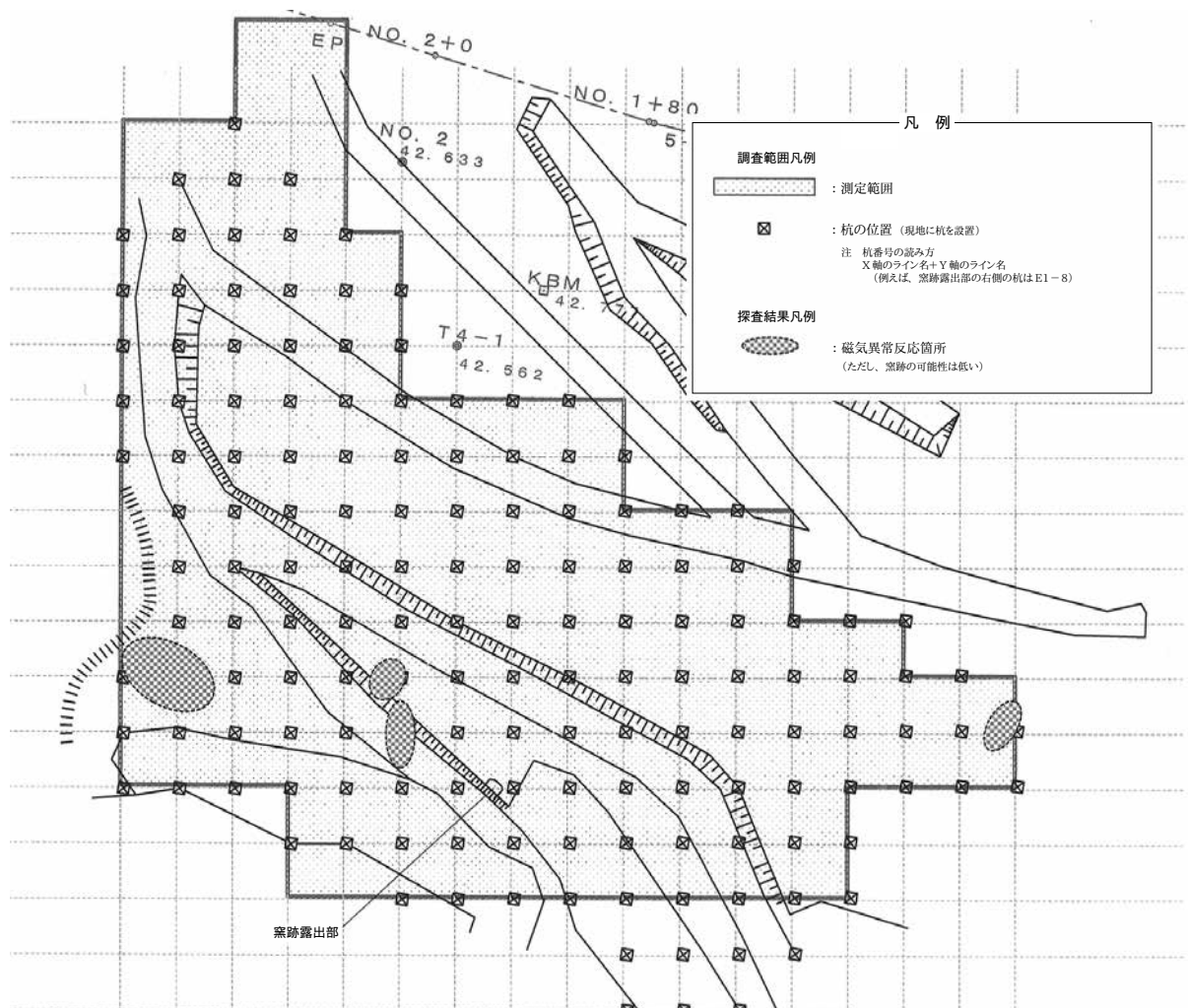
第18図 丘陵部遺構分布状況推定平面図

[S = 1/600]



第19図 北側斜面遺構分布状況推定平面図

(S = 1/400)



第20図 南側斜面磁気探査結果

(S = 1/750)

第5章 ま と め

金沢市北部地域は、近年になって東部環状道路事業に伴うものを始めとして発掘調査が増え、遺跡の状況が明らかとなってきた。今回確認した4つの遺跡は、それらと合わせ金沢市北部地域の地域史を考える上で重要である。それぞれの確認調査の要点を述べまとめとする。

観法寺墳墓群では、トレンチ調査によって1区、3区、4区、6区で周溝とみられる遺構が確認できた。3区では、弥生時代終末～古墳時代初頭の土器がまとまって出土した。丘陵部尾根状に、弥生時代～古墳時代の土器片が広く散布していることも合わせ、墳丘墓もしくは古墳が少なくとも4基あると想定できる。また5・6区の高まりが、前方後方墳の形状に見え、レーダー探査の結果においても周溝や埋葬施設を想定できる反応が得られていることも追記しておく。

観法寺ジンヤマ横穴がある丘陵北側斜面では、既に丘陵が削り取られ1基のみが残る状態であることを確認した。おそらく群をなしていたと思われるが、当時の姿は既に失われていた。

観法寺ジンヤマ窯跡がある丘陵南側斜面では、灰原が一切確認できなかった。丘陵の裾部分が既に削り取られていることもあろうが、窯跡が群をなしていたとは考えにくい。また磁気探査の結果においても、明瞭な窯跡を示す磁気異常がみられないという結果がでた。以上のことから、現状では窯跡は1基単独で存在し、瓦陶兼業の7世紀末～8世紀前半代の窯であろうと考えられよう。

観法寺ヤツタ遺跡では、トレンチで確認できた遺構・遺物から10・11世紀代の集落跡が想定できる。1箇所集中して建物等の遺構があるのではなく、谷部全体に散在している可能性が高い。また、遺構は明確に確認していないが、中世の遺物も出土していることから、古代面の上層に中世面がある可能性も考慮したい。古代面の下層に、より古い時代の遺構面があるかについては不明である。可能性は否定できないが、盛土があまりにも厚く、トレンチ調査では確認作業が不可能であった。

確認した4つの遺跡について簡単にまとめてみたが、当該調査区の北方にある観法寺古墳群、観法寺谷遺跡、梅田B遺跡などといった調査と合わせて、周辺地域の地域史を考える上で今回の調査成果は重要であると評価したい。今後発掘調査が行われることによってさらに遺跡の状況が明らかとなろうが、上記の遺跡の調査結果と合わせて考えると、古代以降はきわめて祭祀・宗教的な色彩の強い地域であると考えられよう。

引用・参考文献

- 石川県環境安全部消防防災課 1999 「平成10年度地震関係基礎調査交付金 森本・富樫断層帯に関する調査成果報告書」
石川県
- 石川県教育委員会 1992 『石川県遺跡地図』
- 大西 顕 2002 「観法寺須恵器窯跡」『指江遺跡・指江B遺跡』石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター
- 柿田祐司^{ほか} 2002 『梅田B遺跡Ⅰ』石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター
- 柿田祐司^{ほか} 2004 『梅田B遺跡Ⅱ』石川県教育委員会・(財)石川県埋蔵文化財センター
- 鮎野義夫 1992 「加賀平野」『アーバンクボタ』No.31 株式会社クボタ 48-55頁
- 金沢北ロータリークラブ郷土史編集委員会編 1983 『金沢地域誌 加我の譜』金沢北ロータリークラブ
- 久田正弘 1993 「金沢市梅田テランヤチ出土の遺物について—時宗梅田光撰寺跡の検討—」『社団法人石川県埋蔵文化財保存協会年報5』
- 藤田邦夫・増山仁 1999 「中世」『金沢市史』資料編19 考古 金沢市教育委員会
- 向井裕知^{ほか} 2003 『堅田B遺跡Ⅰ』金沢市埋蔵文化財センター
- 向井裕知^{ほか} 2004 『堅田B遺跡Ⅱ』金沢市埋蔵文化財センター
- 安 英樹 2000 「観法寺谷遺跡」『石川県埋蔵文化財情報』第4号 (財)石川県埋蔵文化財センター 22-23頁
- 2000 「観法寺古墳群」『石川県埋蔵文化財情報』第4号 (財)石川県埋蔵文化財センター 20-21頁
- 2001 「観法寺古墳群」『石川県埋蔵文化財情報』第6号 (財)石川県埋蔵文化財センター 22-23頁
- 安 英樹 1999 『剣崎遺跡』(財)石川県埋蔵文化財センター
- 熊谷葉月 1997 「動向加賀」『北陸古代土器研究会』第7号 北陸古代土器研究会 133-134頁

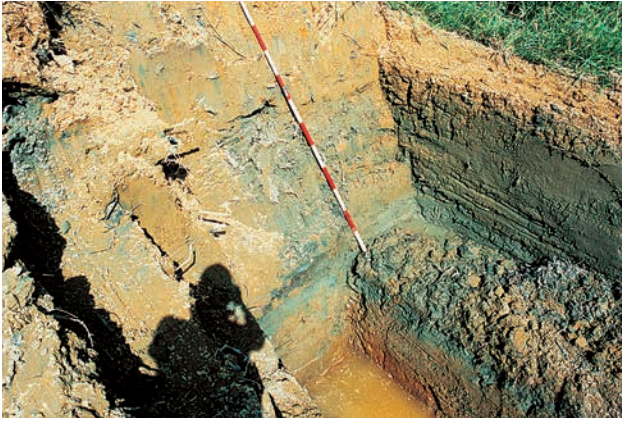
写真図版



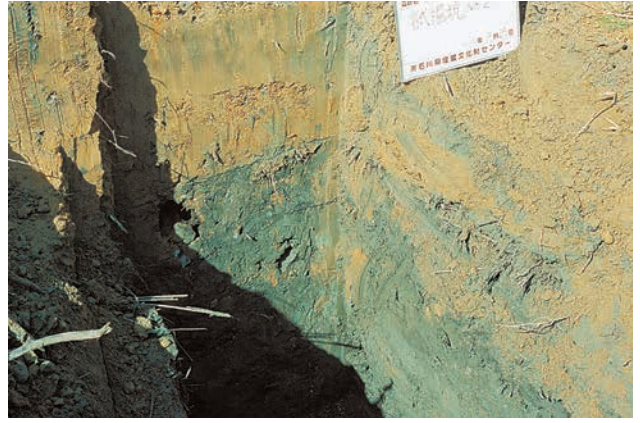
調査着手前丘陵南側（南から）



調査着手前丘陵北側（北東から）



試掘坑 1



試掘坑 2



試掘坑 3



試掘坑 4



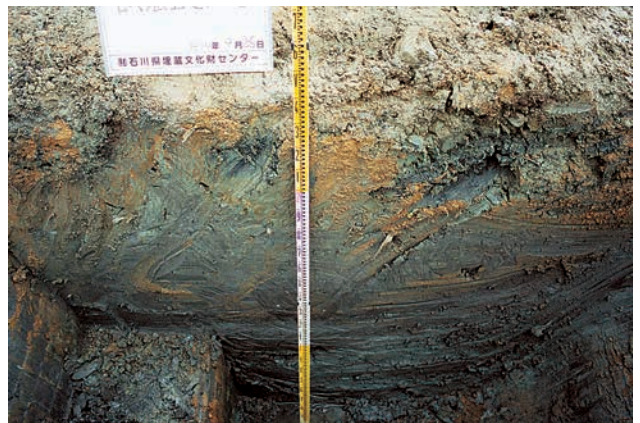
試掘坑 5



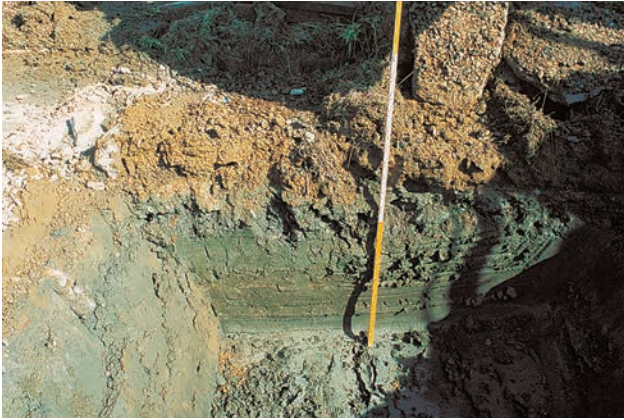
試掘坑 6



試掘坑 7



試掘坑 8



試掘坑9



試掘坑10



トレンチ1 北壁土層断面



トレンチ1 ピット内土器出土状況



トレンチ2 北壁土層断面



トレンチ3 全景 (南東から)



トレンチ4 全景 (南から)



トレンチ5 東壁土層断面



トレンチ6 掘削状況



トレンチ7 東壁土層断面



トレンチ7 土師器埋納ビット検出状況



トレンチ8 全景 (東から)



トレンチ8 南壁土層断面



トレンチ9 遠景



トレンチ9 北壁土層断面



丘陵北側斜面 調査後（東から）



観法寺ジヤマ横穴



観法寺ジンヤマ窯跡 窯体露出部



推定焚口部 瓦出土状況



丘陵南側斜面 調査後（南東から）



谷部試掘トレンチ等 遠景（北東から）



1・2区 全景 (南東から)



3・4区 全景 (南東から)



3区 出土土器（土器群1）



5区 全景（南東から）



6区 全景（南東から）



7区 全景（南東から）



8区 全景（東から）



1区 北壁土層断面



2区 北壁土層断面



3区 北壁土層断面



4区 北壁土層断面



5区 北壁土層断面



6区 北壁土層断面



7区 北壁土層断面



8区 北壁土層断面



磁気探査



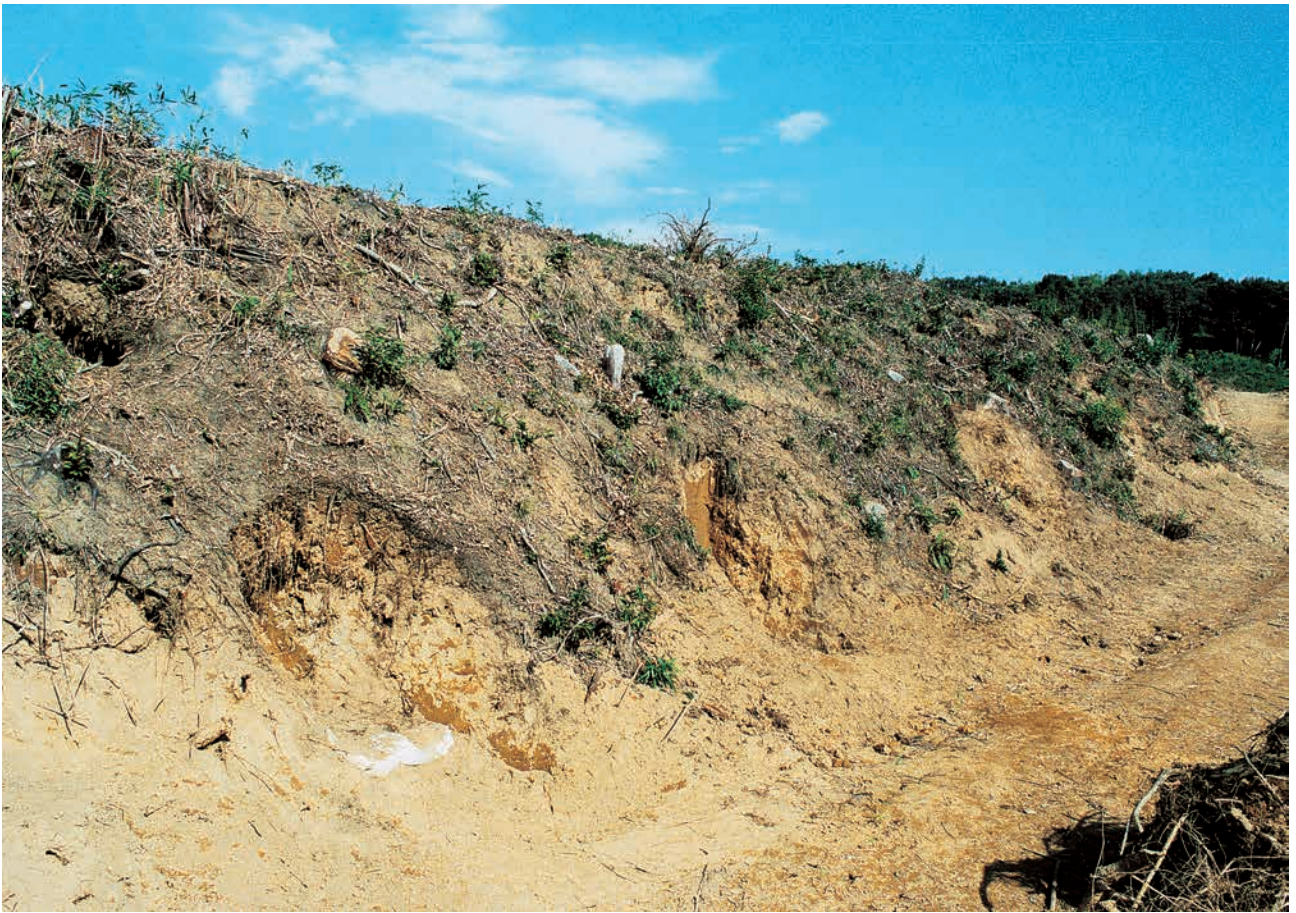
レーザー探査



観法寺瓦窯 遠景



観法寺須恵器窯 遠景



貯藏穴群 遠景



貯藏穴 1



貯藏穴 2



貯藏穴 3



貯藏穴 4



貯藏穴 5



貯藏穴 6



貯藏穴 7



貯藏穴 8



貯藏穴 9



貯藏穴 11



貯藏穴 12



貯藏穴 13



1/3 1·2·4~11·14
1/4 3·12·13



報告書抄録

ふりがな	かなざわしかんぼうじふんぼぐん・かんぼうじじんやまよこあな・かんぼうじじんやまかまあと・かんぼうじやったいせき							
書名	金沢市観法寺墳墓群・観法寺ジンヤマ横穴・観法寺ジンヤマ窯跡・観法寺ヤッタ遺跡							
副書名	一般国道8号金沢東部環状道路事業に係る埋蔵文化財確認調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	柿田 祐司 松尾 実							
編集機関	財団法人 石川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒920-1336 石川県金沢市中戸町18-1 TEL 076 (229) 4477							
発行機関	石川県教育委員会・財団法人石川県埋蔵文化財センター							
発行年月日	2005(平成17)年1月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 (新)	東経 (新)	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かんぼうじかんぼぐん 観法寺墳墓群	いしかわけん 石川県 かざわ 金沢市 かんぼうじ 観法寺町	17201		36度 37分 06秒	136度 42分 15秒	20020903 ～ 20021108	1,000 (対象面積約 28,700)	一般国道8号金沢東部環状 道路事業
かんぼうじ 観法寺ジンヤ マ横穴								
かんぼうじ 観法寺ジンヤ マ窯跡								
かんぼうじ 観法寺ヤッタ 遺跡								
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
観法寺墳墓群	墳墓	弥生時代	墳墓4基以上	弥生土器				
観法寺ジンヤマ横穴	横穴	古墳時代	横穴墓1基					
観法寺ジンヤマ窯跡	窯跡	飛鳥時代 奈良時代	窯跡1基	須恵器・丸瓦・平瓦				
観法寺ヤッタ遺跡	集落跡	平安時代 中世	建物跡 溝跡	土師器・瀬戸焼				

金沢市
観法寺墳墓群・観法寺ジンヤマ横穴・
観法寺ジンヤマ窯跡・観法寺ヤッタ遺跡

発行日 平成17年1月31日
 発行者 石川県教育委員会
 〒920-8575 石川県金沢市鞍月1丁目1番地
 電話 076-225-1842(文化財課)

(財)石川県埋蔵文化財センター
 〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1
 電話 076-229-4477
 E-mail address mail@ishikawa-maibun.or.jp

印刷 株式会社 橋本確文堂

添付CD-ROM資料説明

I 内容

- 1 本確認調査報告書に関わる資料閲覧用リンク集 HTML形式
 - ・ 確認位置と周辺の遺跡情報
 - ・ 確認調査範囲と各種図面情報
 - ・ 出土遺構・遺物写真情報
- 2 本確認調査報告書のデータ PDF形式
- 3 閲覧用インストーラ EXE形式
- 4 閲覧用マニュアル HTML形式

II 推奨動作環境

動作OS	Windows 98・2000・XP
動作機種	汎用
WEBブラウザ	Internet Explorer 6.0以降

添付CD-ROM

